

令和5年度

# 学生生活実態調査

## 報告書

Aichi University of Education



国立大学法人

愛知教育大学

## はじめに

令和5年7月に実施した学生生活実態調査の結果がまとまりましたので、ここに報告致します。前回調査は令和元年7月の実施ですので4年振りとなります。前回からWeb形式で実施しています。Web形式は紙面形式に比べ回答率が下がりがちですが、本調査では回答率が前回の7割程度から8割程度に上昇しました。膨大な質問項目にもかかわらず、回答を寄せてくれた学生の皆さん、実施にご協力いただいた教職員の皆さんに心より感謝申し上げます。

この4年間を振り返ると、前回調査の翌年には、新型コロナ感染症の拡大という大変大きな出来事がありました。それにより、授業がオンラインで行われるようになるなど、「ニュー・ノーマル」とも呼ばれた新たな生活様式が学生生活にも多々生じました。今回の調査までに社会はコロナ禍以前の状態にかなり戻っており、調査結果には前回からさほど大きな変化は見られませんが、中にはその影響を感じさせるものもあります。

4年に一度の本調査は、学生の皆さんの生の声を直接聞くことができる非常に貴重な機会です。特に、毎回「大学に期待すること」を尋ねていますが、そこに寄せられた意見や要望は、これまで大学の運営やキャンパスの環境整備に数多く活かされて来ました。この伝統を大事にし、これからも学生の皆さんの声を大事にできる大学でありたいと思います。共に知恵を出し合い、キャンパスをより一層「通いたくなる場所」にし、学生生活を充実させていきましょう。

今後も引き続き、大学運営にご協力とご支援の程よろしくお願い致します。

令和6年3月

愛知教育大学 学生支援委員会委員長

小塚 良孝



# 目次

1) 基本事項 .....	1
2) 経済状況 .....	2
3) アルバイト .....	3
4) 学生支援体制について .....	5
5) 通学状況 .....	8
6) 大学の施設利用、居場所 .....	10
7) 授業のある日の時間の使い方 .....	11
8) 就職活動の支援 .....	18
9) 課外活動 .....	20
10) 施設 .....	22
11) 大学に期待すること .....	25
12) 総括 .....	27
13) 参考資料 .....	29



音楽棟



## 1) 基本事項

### <愛知教育大学の学生は、変わらず8割以上が愛知県出身者>

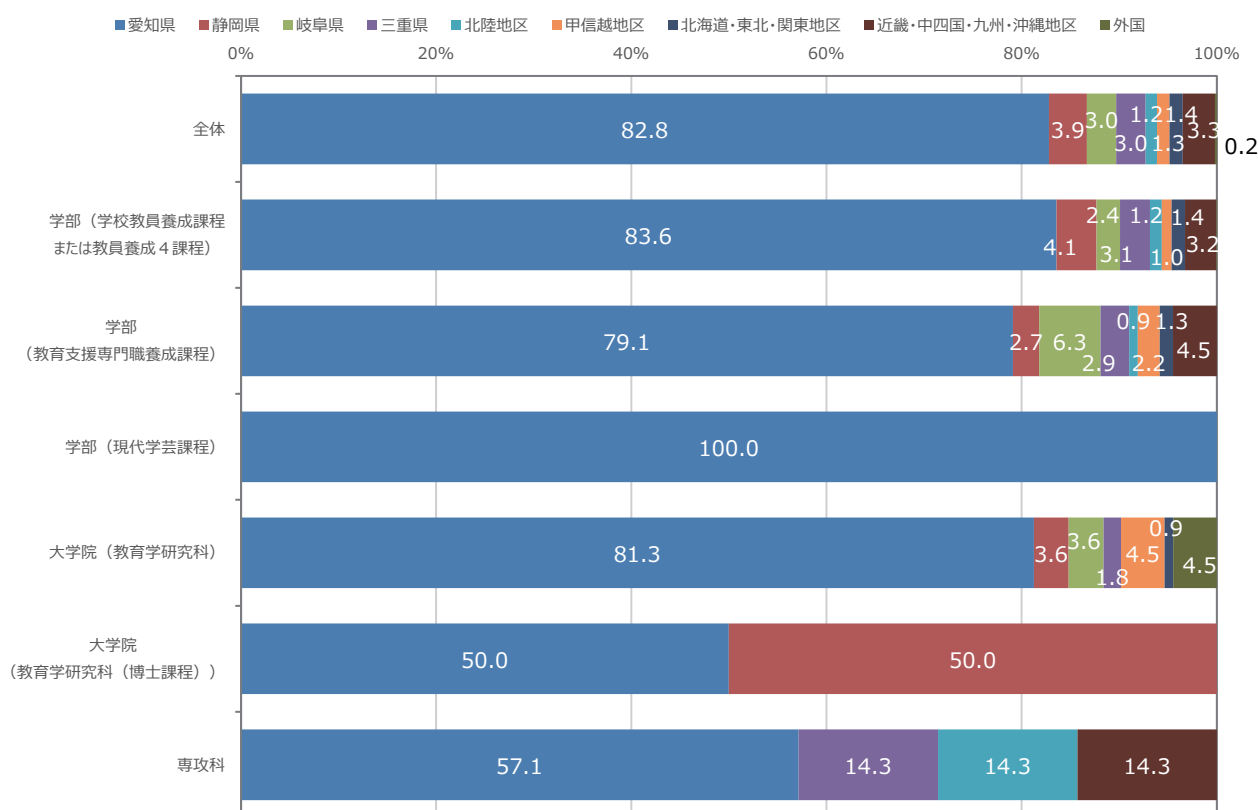
回答してくれた学生は、全体 3,996 人に対して 3,198 人、学部生 3,726 人に対して 3,075 人、大学院生が 243 人に対して 115 人、専攻科が 27 人に対して 7 人でした。全体と学部生の回収率は前回令和元年度の調査時の、72.7%、73.1%に対して、80.0%、82.5%と7%強上回っています。他方大学院、専攻科の回収率は前回の 64.7%、100.0%に対して、47.3%、25.9%と大幅に下回っています。下回った原因は不明ですが、調査回答期限の段階で回収率が著しく低い大学院や専攻科については回答期限を延長して提出を呼び掛ける方法もあったと考えられます。

愛知教育大学の学生は、母数が少ない大学院博士課程、専攻科、現代学芸課程（平成 28 年度入学者まで）を除けば、愛知県出身者がとても多いという傾向とその割合は、前回とそう変わりません。愛知県出身者に次いで、在来線や私鉄で愛知県と往来が容易な静岡県、岐阜県、三重県の出身者が多い傾向も同様です。基本的には地元密着型の大学である傾向は変わらないと言えるでしょう。

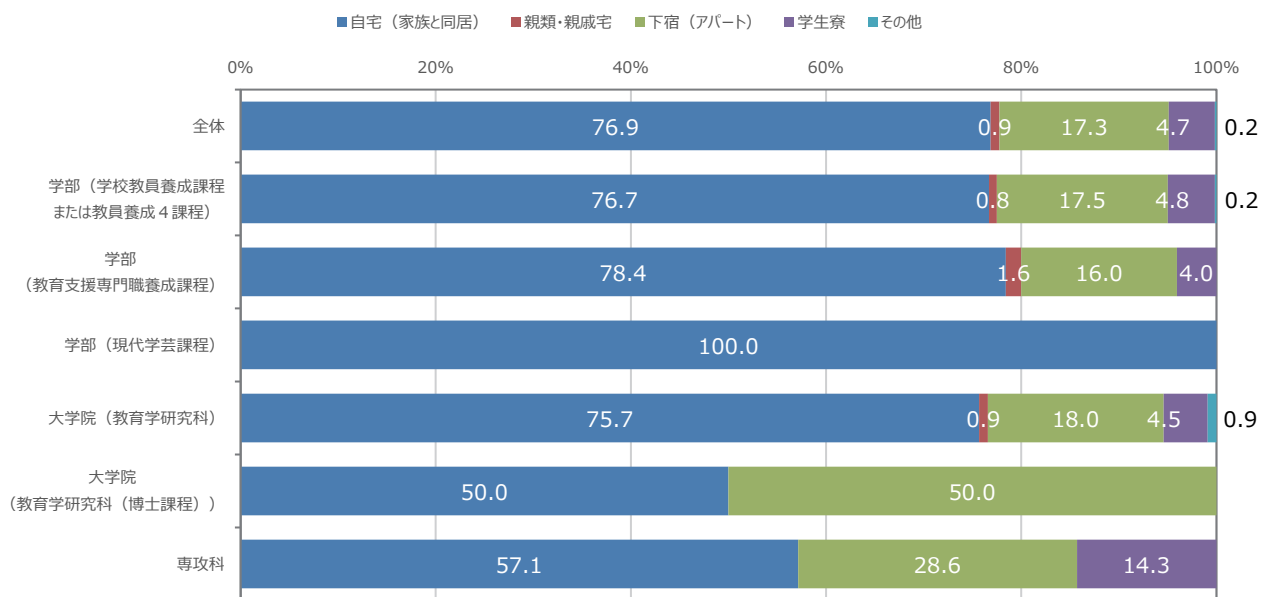
また自宅で家族と同居する学生が、前回同様7割以上（76.9%）であることも、前回とほぼ同じ傾向です。大学院（教育学研究科）の学生の自宅生率が上がった（65.7%→75.7%）ことが、わずかに見られる変化です。

	学生数	回収数	回収率
全 体	3,996	3,198	80.0
学 部	3,726	3,075	82.5
大学院	243	115	47.3
専攻科	27	7	25.9

#### (家族の住所)



## (あなたの住居)



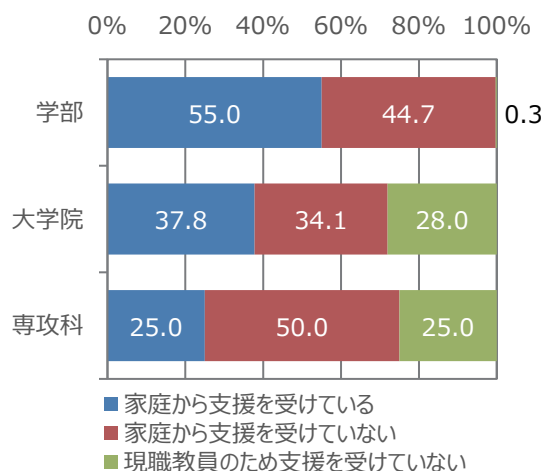
## 2) 経済状況

### <家族からの支援がないと答える学生は減少している>

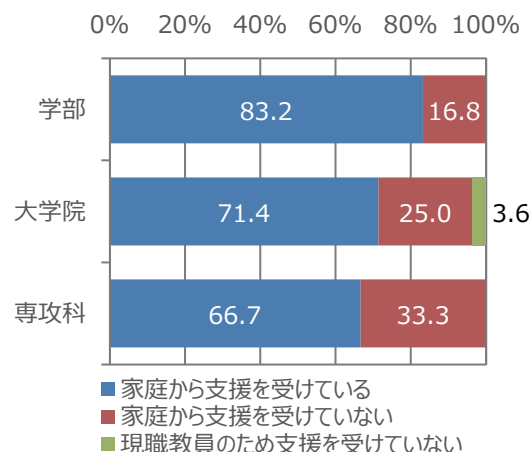
家族からの支援を受けていないと答える学生は、前回の調査時から、学部の自宅生で44.8%から44.7%へ、学部の自宅外の学生で20.5%から16.8%へと減少していますが、この程度の変化では傾向は変わっていないと判断されます。主な授業料負担者についても同様です。

また一か月の支出額を聞くと、自宅外の学生は、5万円以上の支出が学部では52.9%に対し、大学院では75%です。大学院が学部より支出が多い傾向は前回と同様ですが、進学にあたっての不安材料となるかもしれませんから、その原因を今後探っていく必要があるでしょう。家庭からの支援月額は、母数が多く回収率が低下しなかった学部生については前回と同様です。支援月額に大きな幅がある原因についても学生支援の観点から探っていく必要があるでしょう。

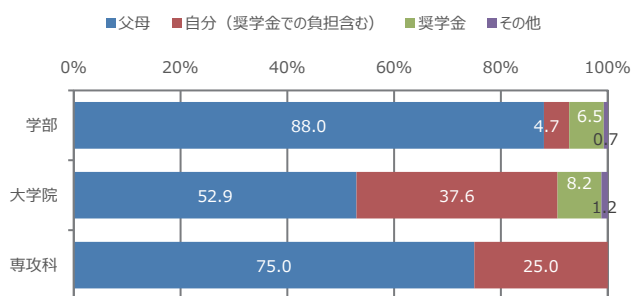
#### (家庭からの支援の状況・自宅生)



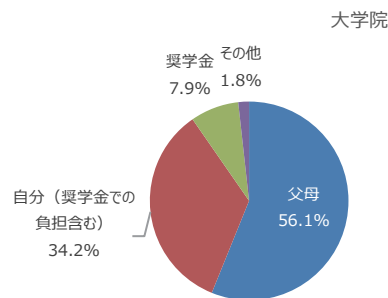
#### (家庭からの支援の状況・自宅外生)



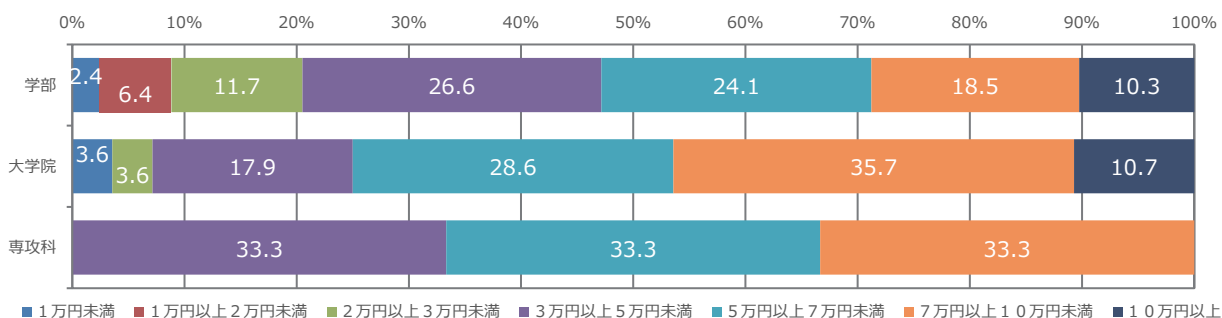
(主な授業料負担者・自宅生)



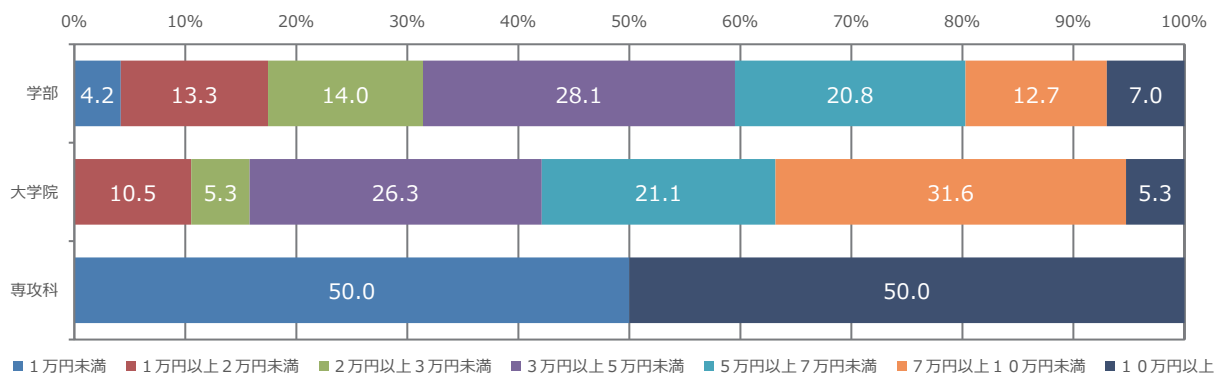
(主な授業料負担者)



(最近1ヶ月の支出額・自宅外生)



(家庭からの支援月額・自宅外生)

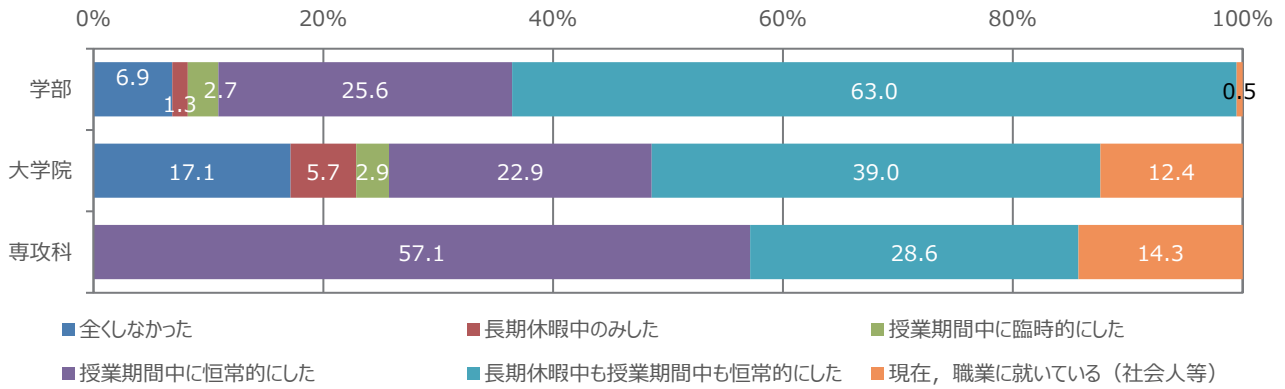


### 3) アルバイト

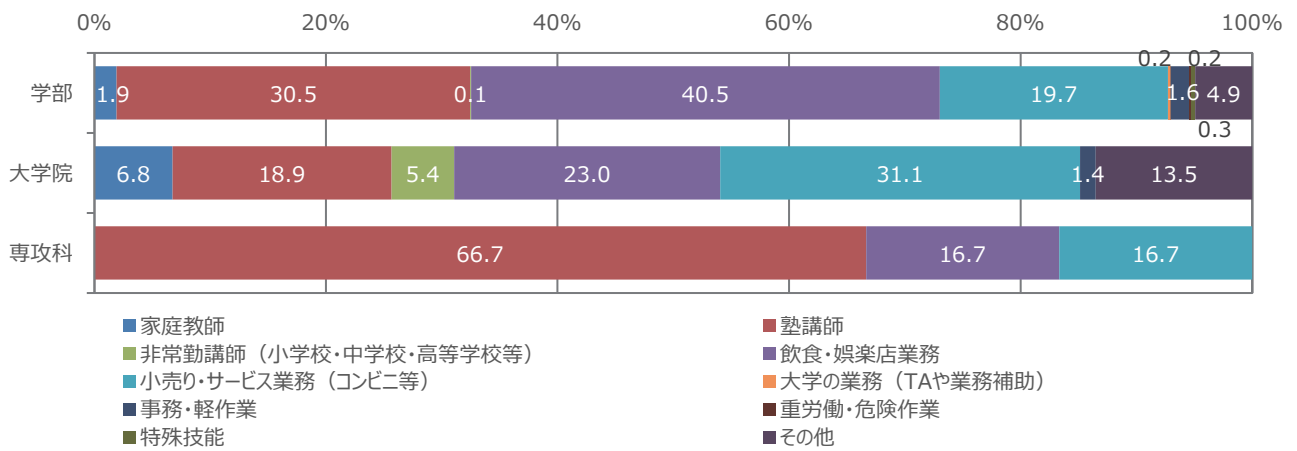
#### <授業期間も長期休暇もアルバイトをする学生たち>

ほとんどの学生は、恒常的にアルバイトをしています。授業期間も、夕方から常にアルバイトをするばかりでなく長期休暇もアルバイトをするという学生は、前回の調査時から大きな変化がありません。その分アルバイトで稼ぐ額は増えています。月額7万円以上稼ぐ学生は、学部生で前回の20.5%から22.0%に増えました。これは社会的な賃上げの動きも影響しているのかもしれませんが。職種の内訳は、学部においては、前回とほぼ同じで、大雑把に言えば、家庭教師と塾講師を合わせて3割、飲食・娯楽店業務4割、小売り・サービス業務2割です。大学院では、今回から回答種目に新たに追加された非常勤講師(小学校・中学校・高等学校等)が5.4%として出現しています。教職大学院においては、大学院生は実習校においても実習と非常勤講師のそれぞれに従事している時間が明確に区別できれば非常勤講師を務めることができるとされており、教員不足に悩む学校と教職大学院生の双方にメリットがある関係構築が期待される所です。

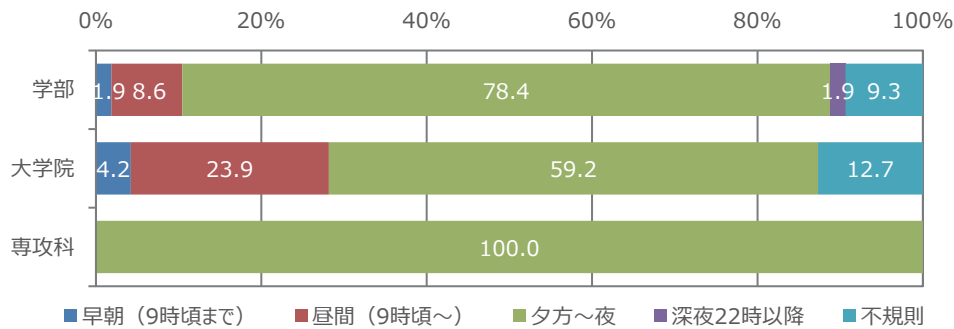
(アルバイトの就労状況は)



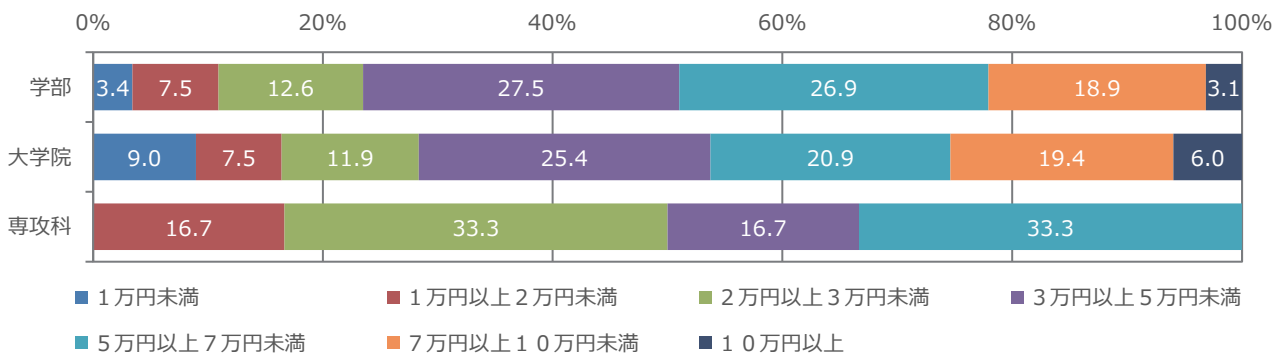
(主なアルバイトの職種を1つ選んでください。)



(アルバイトの主な時間帯は)



(アルバイトによる最近1ヶ月の収入は)



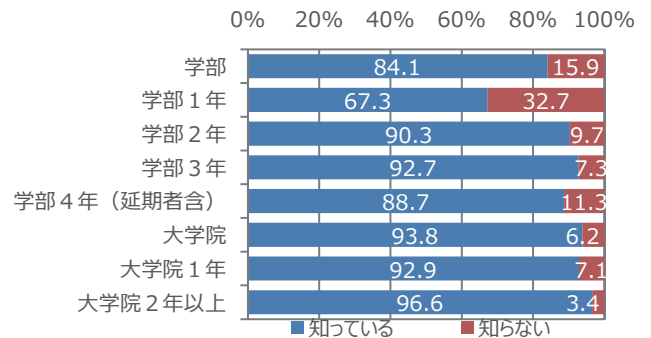
## 4) 学生支援体制について

### < 教員との関係は学年が上がるにつれて深まっている >

#### ア. 指導教員を知っていますか

指導教員について、「知っている」と回答した学生は、学部で 84.1%、大学院で 93.8%に上り、前回の 82.1%、93.5%から改善が見られました。1 年生では、前回の 71.7%から今回の 67.3%へと下がりましたが、2 年生で前回の 78.3%から今回の 90.3%、3 年生で前回の 89.9%から今回の 92.7%と割合が高まっています。4 年生に関しては前回 90.3%から今回 88.7%と低下しています。1 年生、4 年生への指導教員の周知が必要かと思われます。

(指導教員を知っていますか)

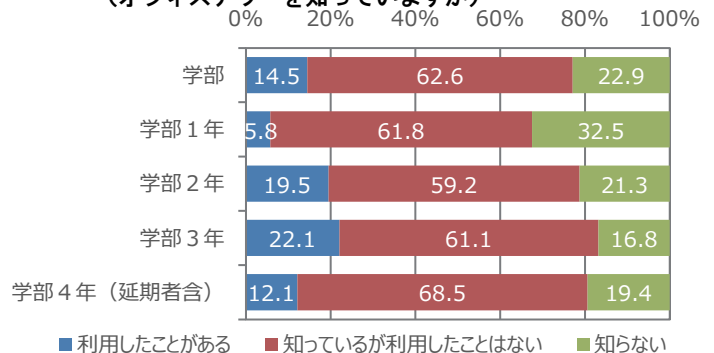


#### イ. オフィスアワーを知っていますか

オフィスアワーについては、「知らない」と回答した学生は、学部で 22.9%であり、前回の 28.5%から減少しています。「利用したことがある」と回答した学生は学部で 14.5%であり、前回の 14.6%とほぼ変化がありません。学年別にみると、「利用したことがある」と回答した 4 年生は、前回の 23.9%に対して、今回は 12.1%と減少しました。

オフィスアワーについての認知度を一層高める必要があると思われます。

(オフィスアワーを知っていますか)

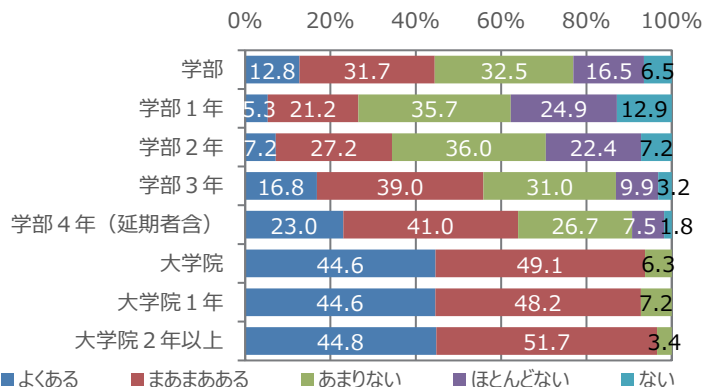


#### ウ. 教員と話す機会がありますか

教員と話す機会については、「よくある」「まあまあある」と回答した学生は、学部で 44.5%であり、前回の 49.2%から低下しています。また、「ない」「ほとんどない」と回答した 1 年生が前回の 37.9%と今回は 37.8%とほぼ変化がありません。初年次の段階で教員との交流の機会がさらに増えることが望めます。

なお、全体的な傾向としては、1 年生 26.5%、2 年生 34.4%、3 年生 55.8%、4 年生 64.0%、大学院 93.7%と、学年が上がるにつれて教員と話す機会が高まっています。

(本学の教員と話す機会がありますか)

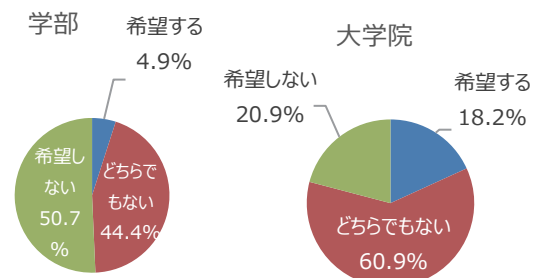


#### エ. 教員と定期的な面談を希望しますか

教員との定期的な面談を「希望する」と回答した学生は、学部で 4.9%、大学院で 18.2%でした。このことから、多くの学生は教員との定期的な面談を希望している訳ではないようです。

「教員との関係」について、ウで見たように学年が上がるにつれて交流の機会が増えていくことが分かります。今回の調査では、指導教員に対する認知度や教員と話す機会について前回の調査に比べて一定の改善が見られました。一方、オフィスアワーについての認知度を高め、教員との交流を希望する学生や大学院生を増やす取り組みが必要と思われます。

(教員との交流を希望しますか)



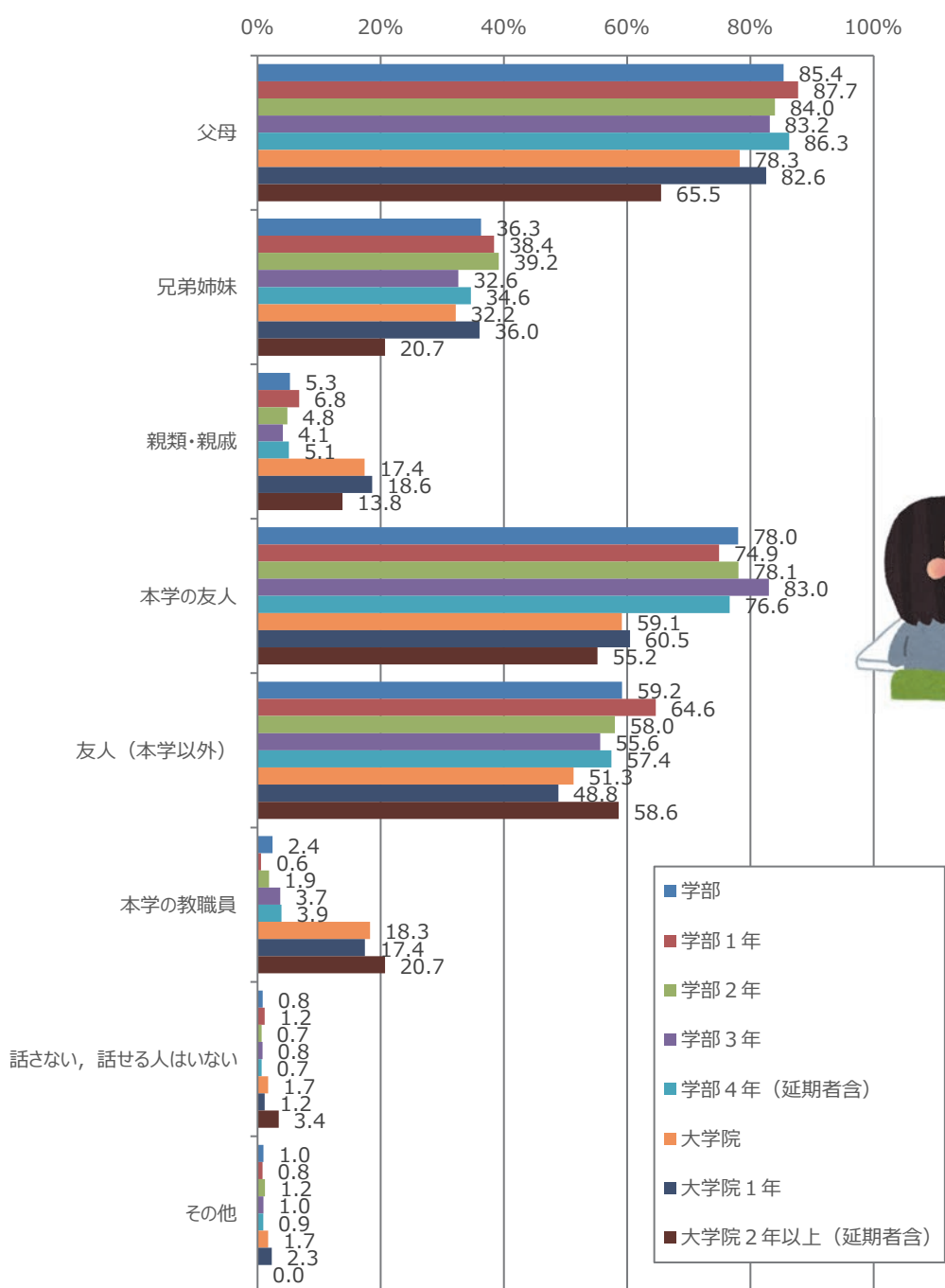


## <相談相手は、父母と本学の友人。悩みは、勉学と就職・進路>

### オ. あなたが学生生活や家庭のことを話せる人は誰ですか

学生生活や家庭のことを話せる人については、学部では、「父母」が85.4%と最も多く、次いで「本学の友人」の78.0%、「本学以外の友人」59.2%となっており、前回の「父母」82.2%、次いで、「本学の友人」が76.2%、「本学以外の友人」56.3%という結果と比べ、「父母」「本学の友人」「本学以外の友人」という回答が若干増えました。大学院についても、「父母」が78.3%と最も多く、次いで「本学の友人」59.1%、「本学以外の友人」51.3%となっており、前回の「父母」70.8%、「本学の友人」60.9%、「本学以外の友人」53.5%という結果と比べ、「父母」の回答が増加しています。

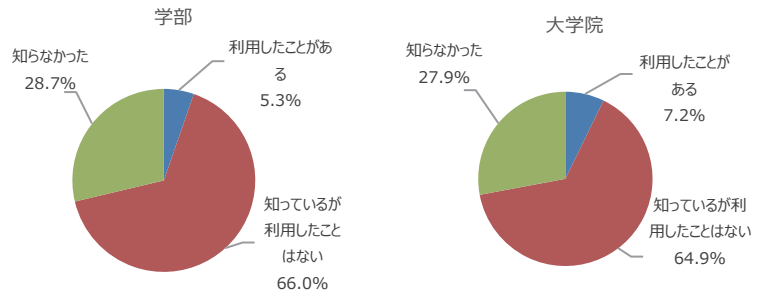
(あなたが学生生活や家庭のことを話せる人は誰ですか 注) 最大3つまで)



その他 恋人、配偶者など

**カ. 本学には、学生さんが様々な相談ができる場所があります。知っていますか。**

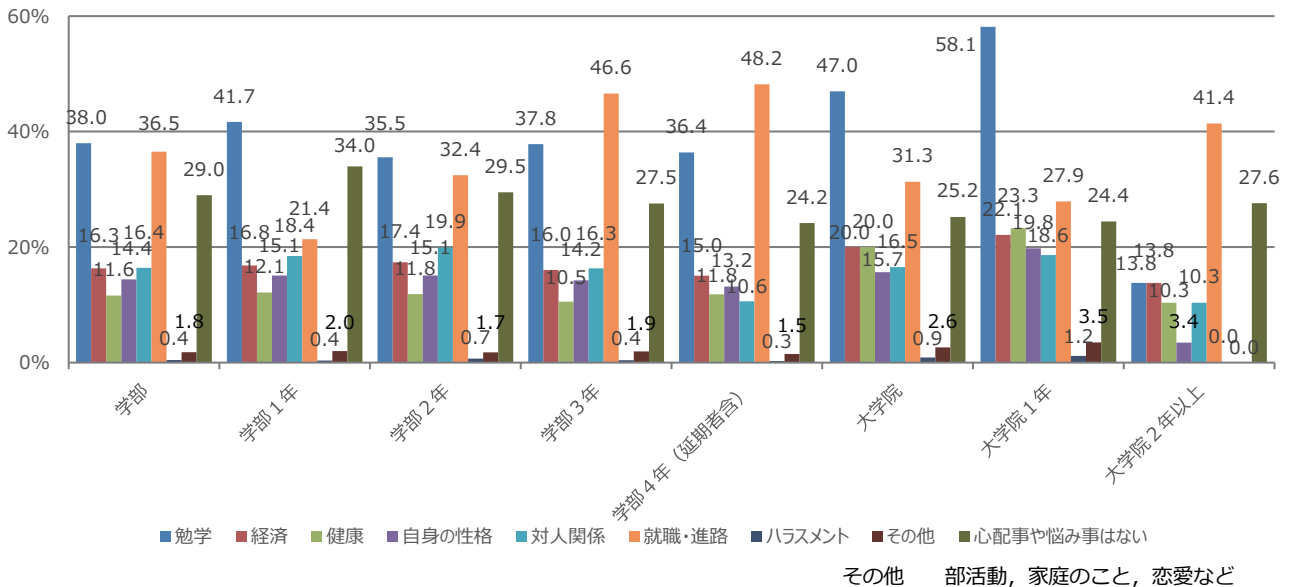
学内での相談のできる場所については、「利用したことがある」と「知っているが利用したことはない」を合わせると、学部で 71.3%、大学院で 72.1%となっています。これは、前回の学部 77.2%の結果と比べて少なくなっています。



**キ. 現在、抱えている心配事や悩みはありますか**

現在抱えている心配事や悩みについては、「勉学」が学部で 38.0%と最も多く、次いで「就職・進路」の 36.5%、「対人関係」の 16.4%となっており、前回調査と比べて「勉学」と「就職・進路」が逆転しました。また、大学院では、「勉学」が 47.0%と最も多く、次いで「就職・進路」31.3%となっています。

(現在、抱えている心配事や悩みはありますか。あてはまるものをすべて選んでください。)

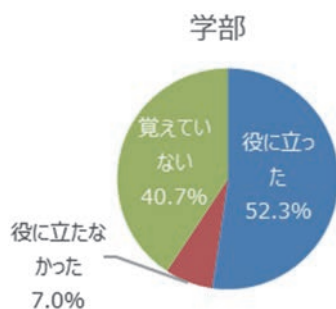


**ク. 本学入学時、大学生活を順調に開始するために各種の入学ガイダンスや交流会等が役に立ちましたか**

入学時の大学生活の開始について、学部で 52.3%の学生が入学ガイダンスや交流会等が「役に立った」と回答しており、前回の 78.1%から少なくなりました。「役に立たなかった」と回答した理由には、「コロナ禍だったため」「参加しなかったから」「資料を読めば分かるから」などがありました。

このように、学生が抱える悩みは、今現在の「勉学」と、将来的な「就職・進路」が中心であることが分かります。今回の調査では学部・大学院のいずれも、相談相手は「父母」が最も多く、次いで「本学の友人」という結果でした。教員や友人との関係などに、コロナ禍の影響等が表れているのではないかと考えられます。

(本学入学時、各種の入学ガイダンスや交流会等により大学生活を順調に開始できましたか)



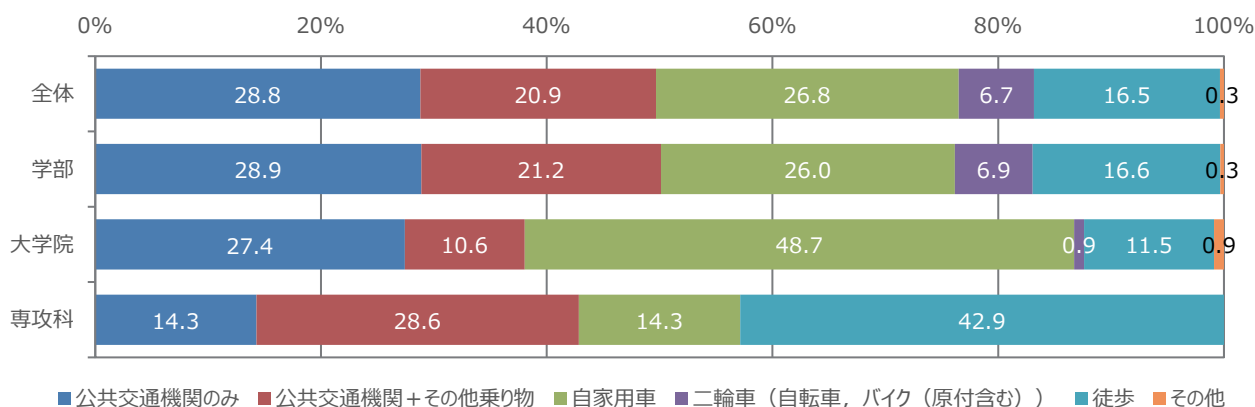
## 5) 通学状況

### <通学は公共交通機関利用者がほぼ半数。通学時間は60分以上66.6%>

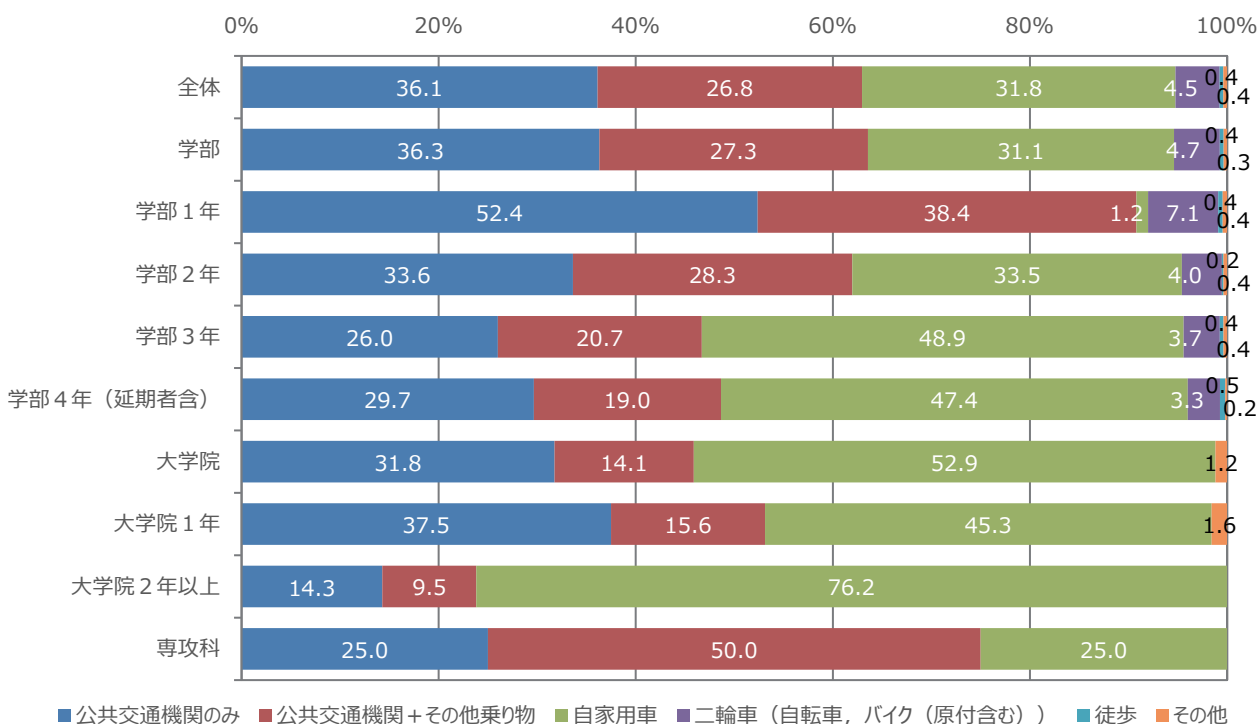
本学の通学は、自宅生が76.9%であることから、どうしても遠方となり、公共交通機関により通学する者が全体の5割と多いことが特徴です。自宅生のうち、公共交通機関だけでは通学できないものも2割ほどあり、本学の立地が交通の便がよくないことに加えて、自宅の場所も公共交通機関へのアクセスが困難な学生も多いことが予想されます。自家用車の利用が26.8%で、前回の27.3%から少し減少しています。通学時間は、90分を超えるものが自宅生で4割弱に上り、通学について不便に感じていることとして「通学時間」と回答した割合も6割以上で最も多くなっています。また、通学について不便に感じていることの自由記述欄には、駐車場及びバスに関する記述が合わせて4割ほどみられました。

自宅生で大学に来る際下車する駅については、約9割が知立駅を利用している一方、富士松駅を利用するという回答が4.0%みられ、前回調査より知立駅の利用が増え、前回1割以上あった豊明駅の利用が減っていることが分かります。

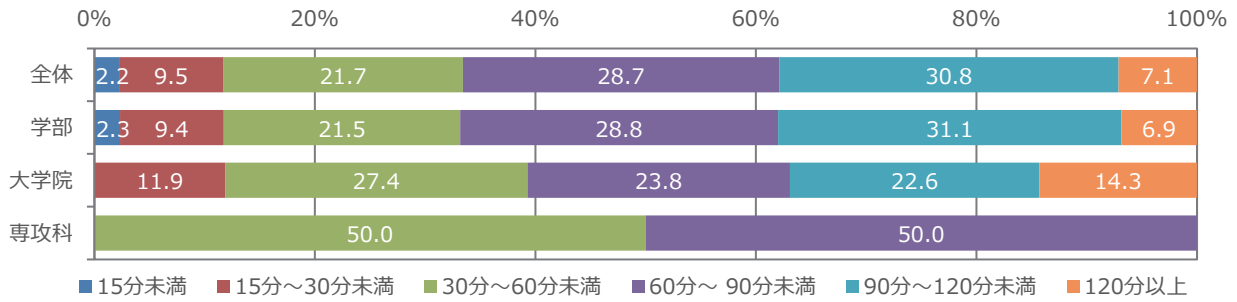
#### (通学方法は)



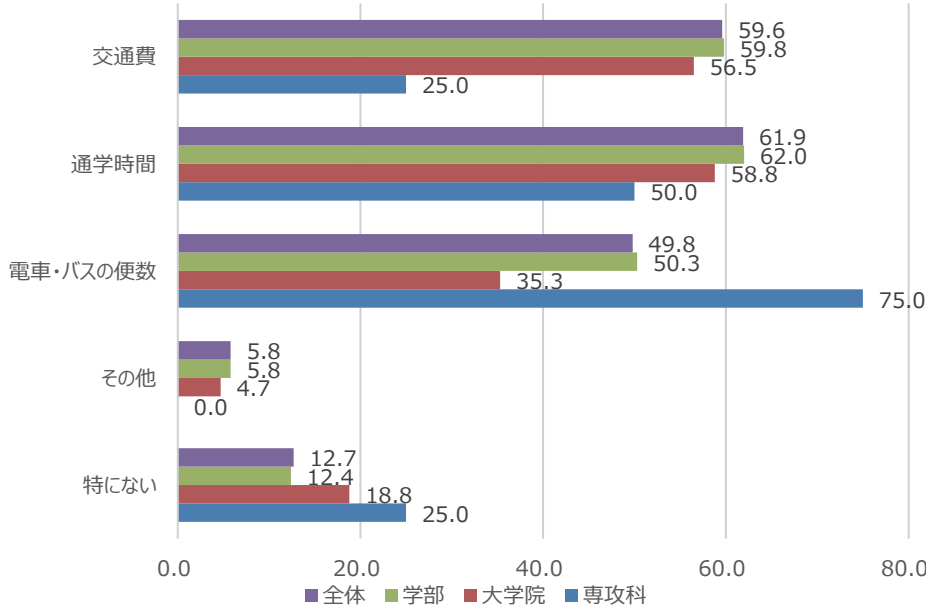
#### (通学方法は) [自宅生]



(通学時間はどのくらいですか) [自宅生]



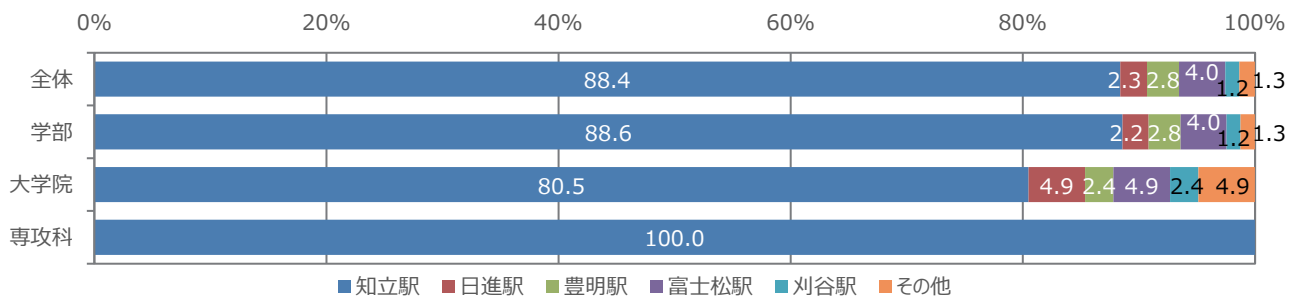
(通学について感じていることー電車・バスの便数) [自宅生]



その他

- ・「学内の駐車場が少ない」「駐車場が空いていない」など駐車場に関すること
- ・「バスの運賃が高い」「バスが混雑する」などバスに関すること
- ・「最寄り駅が遠い」「交通渋滞」「坂道が多い」「ガソリン代が高い」など

(大学に来る際に下車する駅は・自宅生)



駐輪場

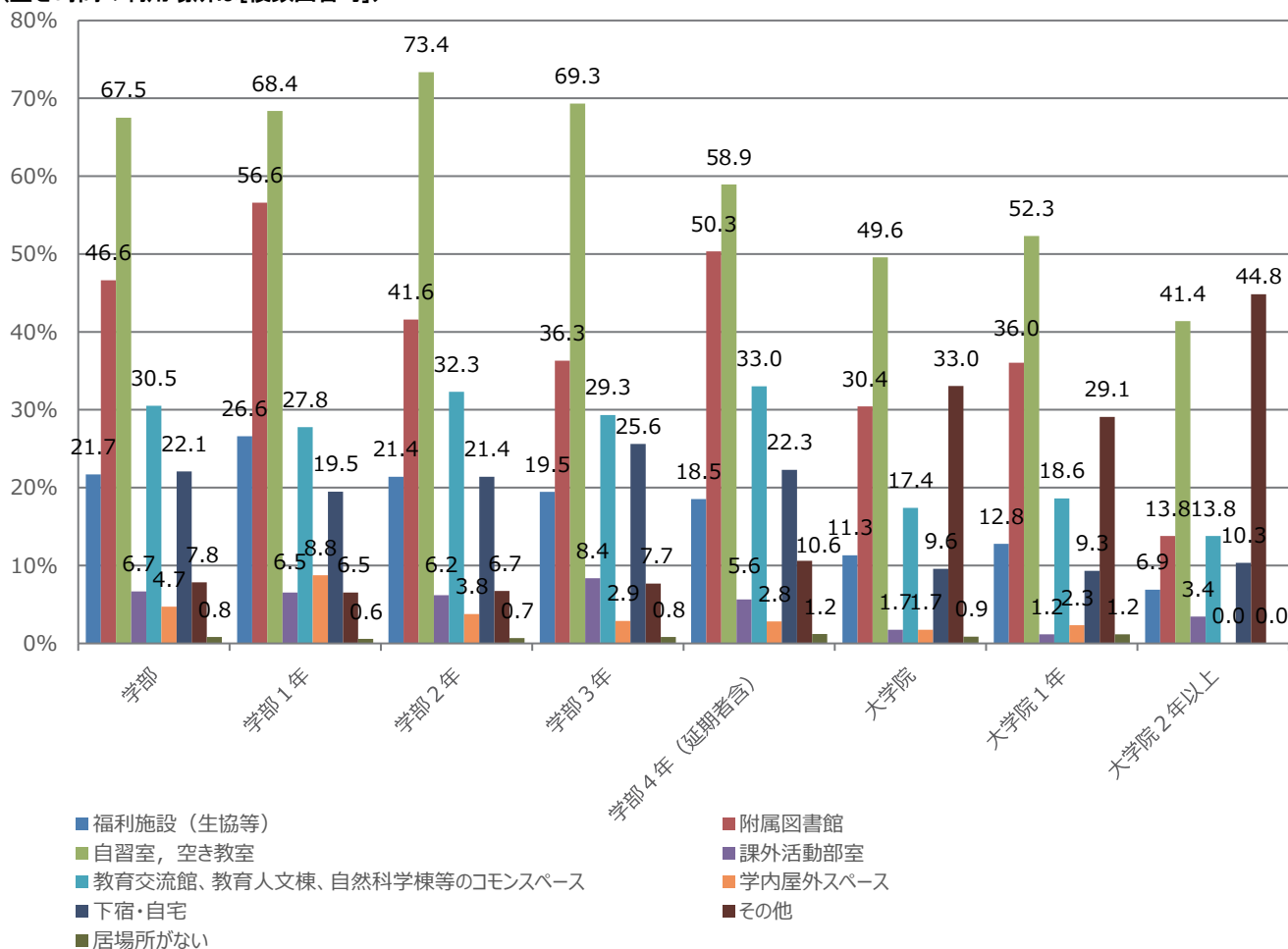
## 6) 大学の施設利用、居場所

### <学内の居場所は、近年整備された自習室等>

#### ア. 空き時間の利用場所は

空き時間の利用場所については、学部で「自習室、空き教室」が 67.5%と最も多く、「附属図書館」の 46.6%、「コモンスペース」の 30.5%と続いています。大学院でも「自習室、空き教室」が 49.6%と最も多く、「附属図書館」30.4%、「コモンスペース」17.4%と続いています。前回の調査で「自習室、空き教室」は学部で 43.1%、大学院で 38.1%でした。「自習室」及び「コモンスペース」が整備されたことによって、いずれの学年も利用されるようになっていきます。

(空き時間の利用場所は[複数回答可])



その他 研究室, 音楽棟(練習室), 院生室など



音楽棟  
ラーニングcommons



## 7) 授業のある日の時間の使い方



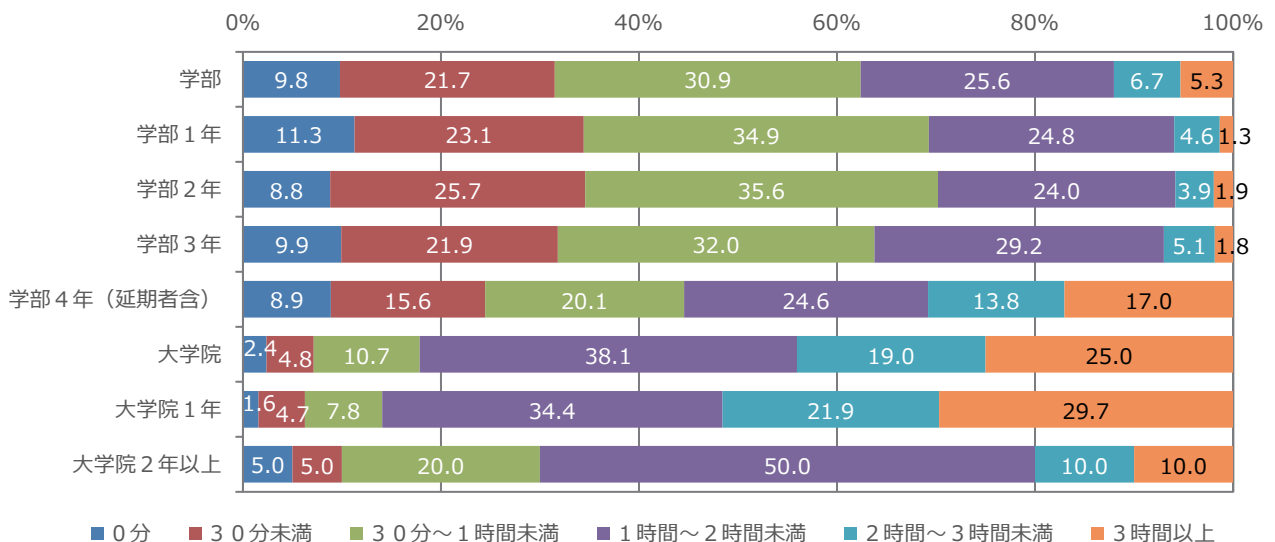
### <学習時間 1 時間未満の学生が増加>

#### ア. 授業以外の学習時間はどのくらいですか

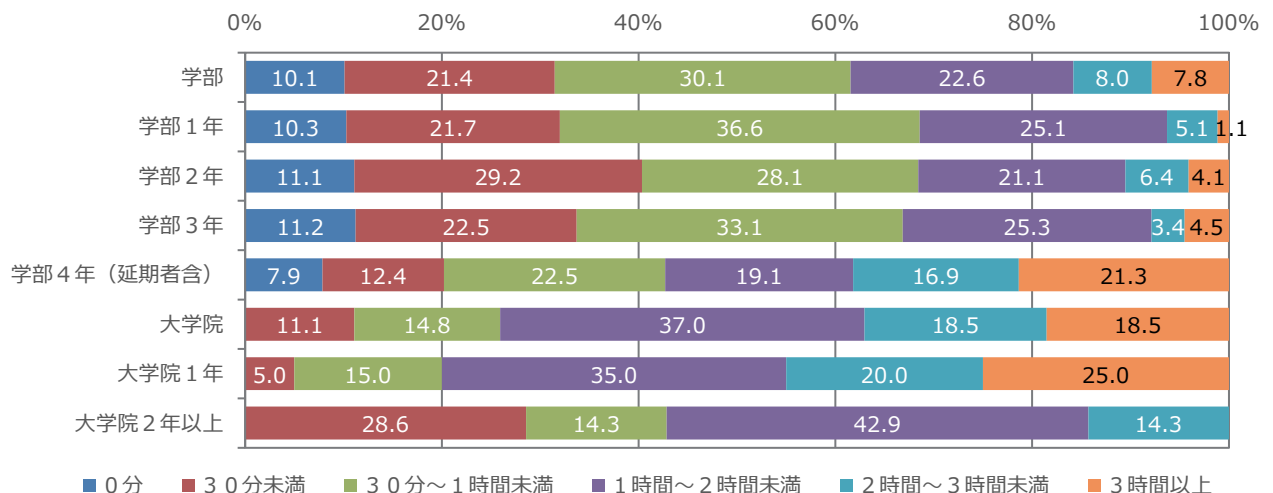
授業以外での学習時間については、30分～1時間未満が、学部では30.9%と最も多く、30分未満は21.7%となっています。しかも0分、30分未満、30分～1時間未満を合わせると、学部全体では自宅生で62.4%、下宿生で61.6%に上ります。つまり本学の6割以上の学部生が、授業以外の自主的な学習を1日1時間未満しかしていないのです。同じ数値は前回では71.6%、68.3%でしたから、この傾向は全体として減少しましたが、依然高い割合といえます。幸いにして、「自主学習が1日1時間未満の学生」の割合は学年が進むにつれて減少していくようです。それでもなお4年生の段階でそうした学生が4割を占めているのです。かなり心配な傾向です。次項で分析するように、その背景には経済的な要因（アルバイト）も強く働いているようです。

大学院生では、自宅生で82.1%、下宿生で74.0%が1日1時間以上の自主学習に取り組み、1日3時間以上の自主学習に取り組む大学院生も自宅生で25.0%、下宿生で18.5%に達しています。これは前回と比べても遜色のない数値です。今後も学部生のよき手本としてがんばってほしいものです。

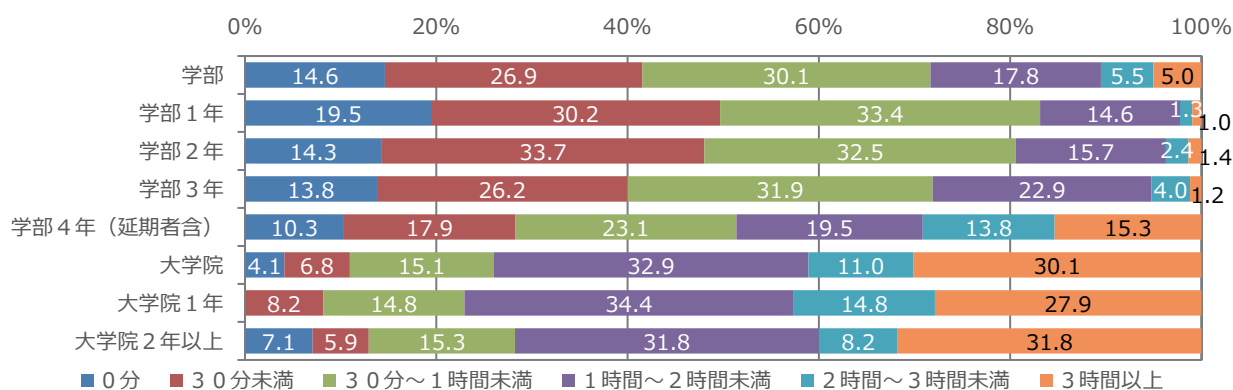
#### (授業以外の学習時間はどのくらいですか・自宅生)



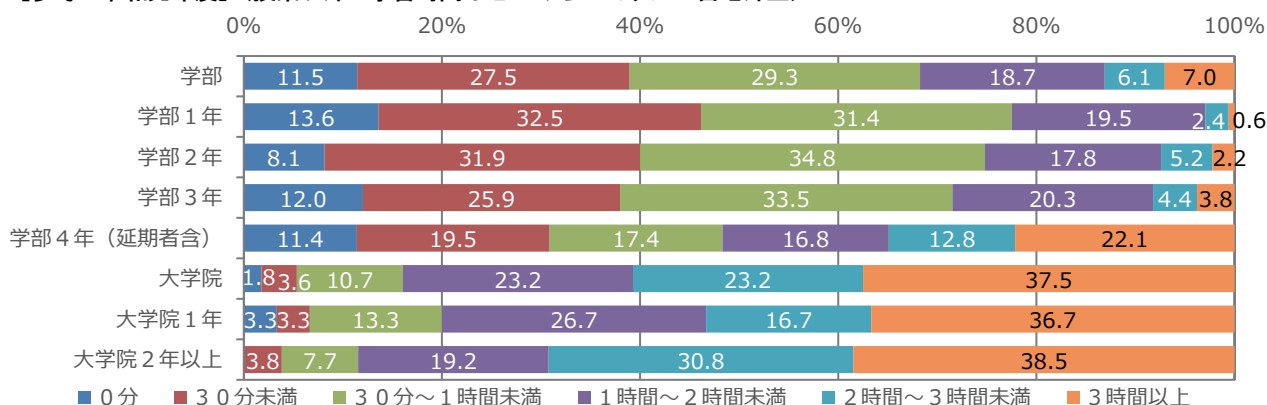
#### (授業以外の学習時間はどのくらいですか・自宅外生)



【参考：令和元年度】（授業以外の学習時間はどのくらいですか・自宅生）



【参考：令和元年度】（授業以外の学習時間はどのくらいですか・自宅外生）



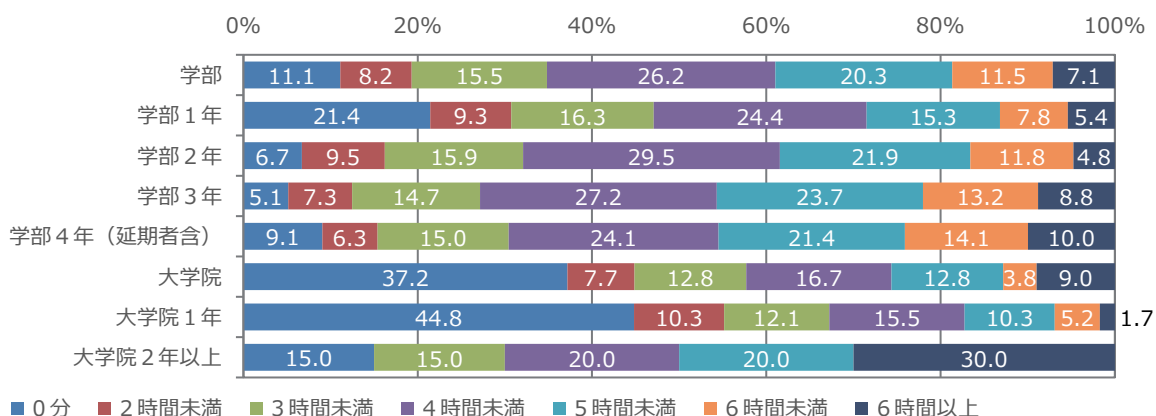
## <毎日6時間以上働く学生も！>

### イ. アルバイトの時間はどのくらいですか

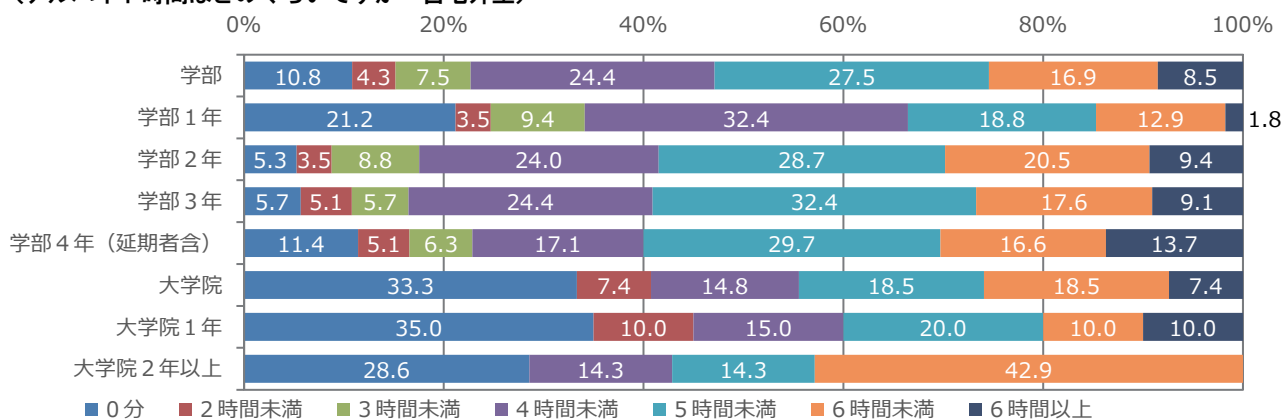
1日に3時間以上アルバイトに費やす学部生が自宅生で65.1%、自宅外生で77.3%もいます。前回は学部生の自宅生が61.3%、自宅外生が69.3%でしたから、これも増加傾向にあります。アルバイトの時間が増えるほど、自学自習に割くことができる時間は目減りしていきます。背景には、近年の物価高が影響していることが考えられます。とりわけ深刻なのは、下宿生の4人に1人が毎日5時間以上のアルバイトをしなければならないという状況です。このような状況下では、自学自習のための時間を確保することは極めて困難です。

大学院生では自宅生の4割近く、下宿生の3人に1人がアルバイトをせずに生活をしています。しかし一方で大学院生でも自宅生で42.3%、下宿生で59.2%が毎日3時間以上のアルバイトをし、下宿生の4人に1人が毎日5時間以上アルバイトをしています。このことを考えるなら、アルバイトをしない大学院生も、経済的な余裕と考えるより、研究時間を確保するためと理解すべきかもしれません。

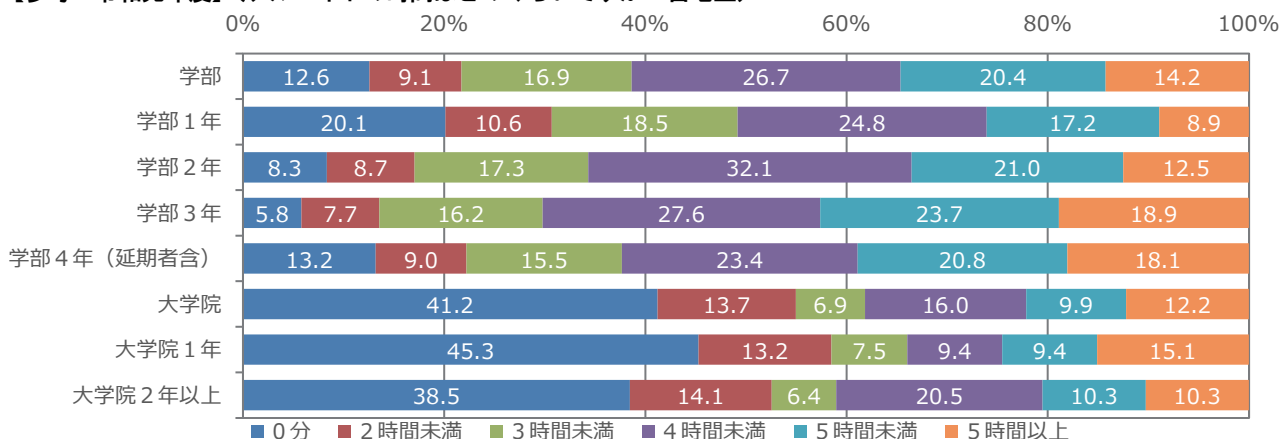
（アルバイト時間はどのくらいですか・自宅生）



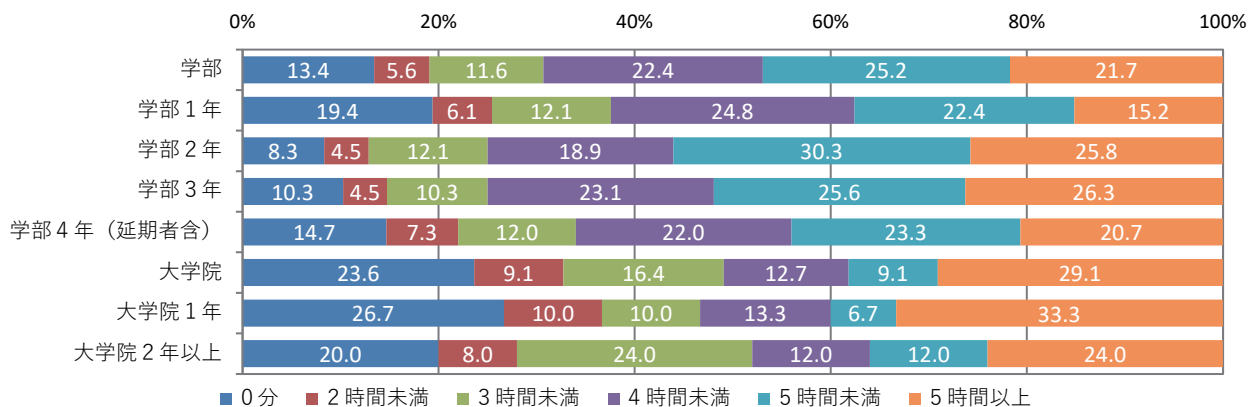
【アルバイト時間はどのくらいですか・自宅外生】



【参考：令和元年度】（アルバイトの時間はどのくらいですか・自宅生）



【参考：令和元年度】（アルバイトの時間はどのくらいですか・自宅外生）



本学公式マスコットキャラクター「エディー」

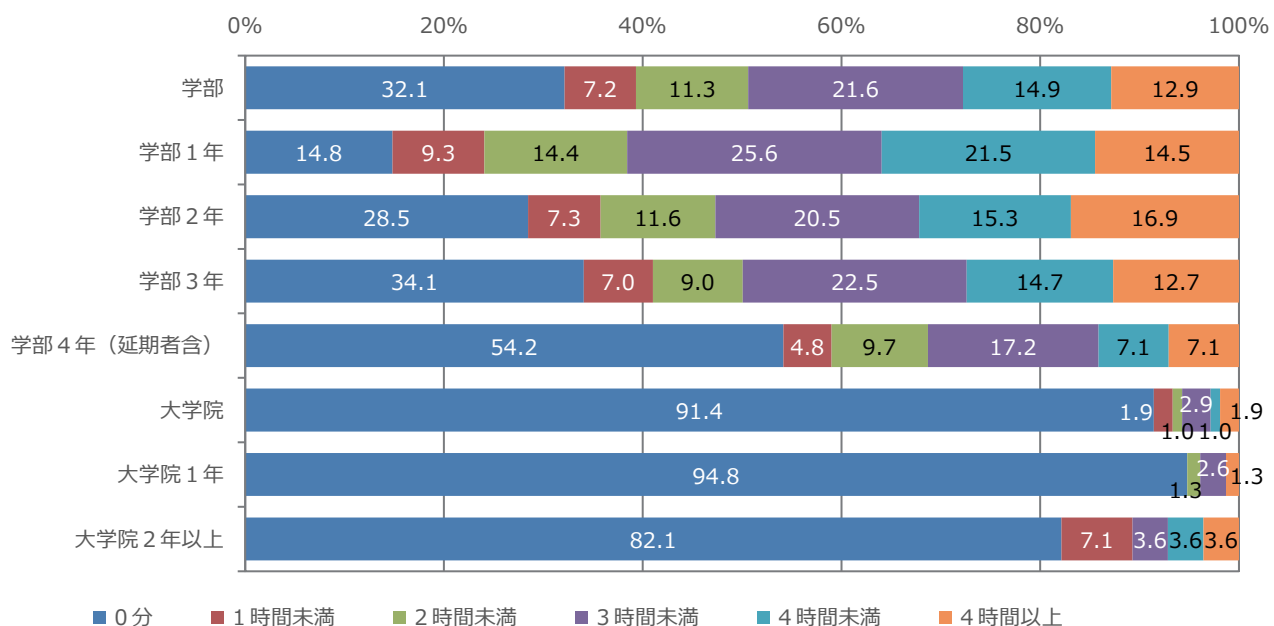
## ＜サークル活動の短時間化・不参加化傾向が進む＞

### ウ. クラブ・サークルの時間はどのくらいですか

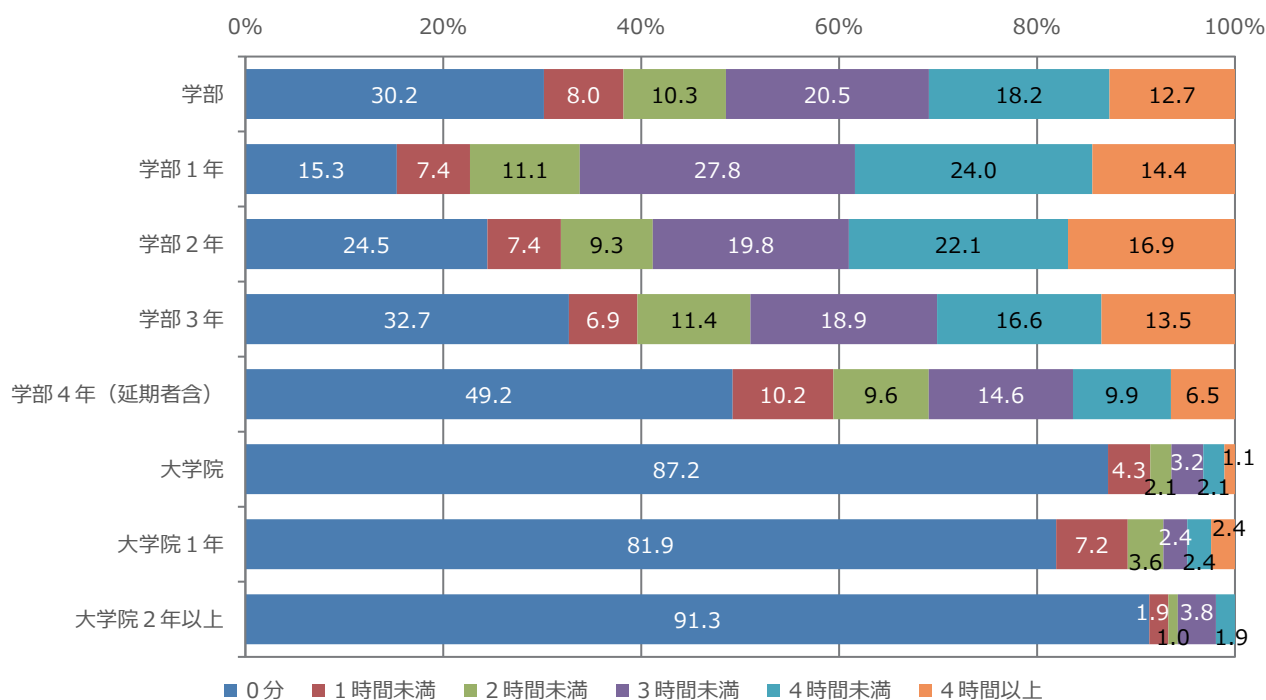
1日の内でクラブ・サークルに費やす時間が3時間以上と答えた学部生は、前回調査の30.9%から今回は27.8%に減少しました。一方で0分と答えた学部生も今回調査で32.1%、前回は30.2%でしたので、サークル活動の短時間化・不参加化傾向が進んでいるようです。学年が進むうちにサークルに3時間以上参加する学生が減り、サークルに参加しない学生が増加するという全体的傾向は、前回でも同様でした。

大学院生では91.4%がサークル活動に参加していません。この傾向も前回と共通しています。クラブ・サークルは学部生主体の活動と言えるでしょう。

#### (クラブ・サークル時間はどのくらいですか)



#### 【参考：令和元年度】(クラブ・サークル時間はどのくらいですか)

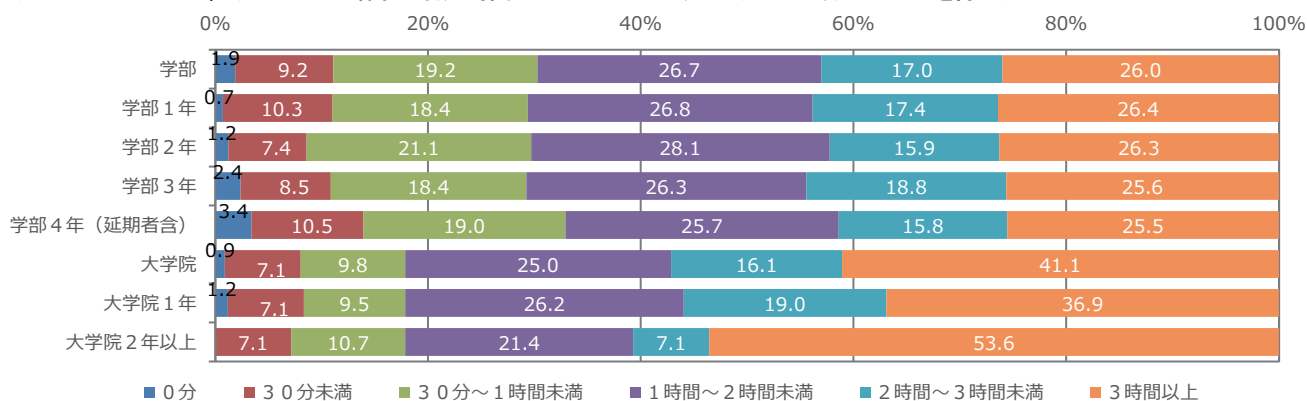


## <学部生は SNS・ゲーム派、大学院生は研究派？>

### エ. パソコンやスマホ、タブレット端末の使用時間はどのくらいですか

パソコンやスマホ、タブレットなどの情報端末を利用する時間自体は、学部生では学年での大きな変化はありませんでした。前回調査では最終学年で最も長時間となっていました。今回は全学年で3時間以上と回答していた割合が多かったことについては、前回調査時と比べてオンデマンド授業の実施が増えていることが影響しているかもしれません。大学院生では最終学年で最も長時間となります。これは卒業研究や就職活動のための利用が増した結果でしょう。学部生で26.0%（前回調査時14.7%）、大学院生で41.1%（前回調査時25.5%）が3時間以上利用すると答えていることも、大学院生により長時間利用者が多いことも、いずれも学習や研究との関連を考えてよさそうです。

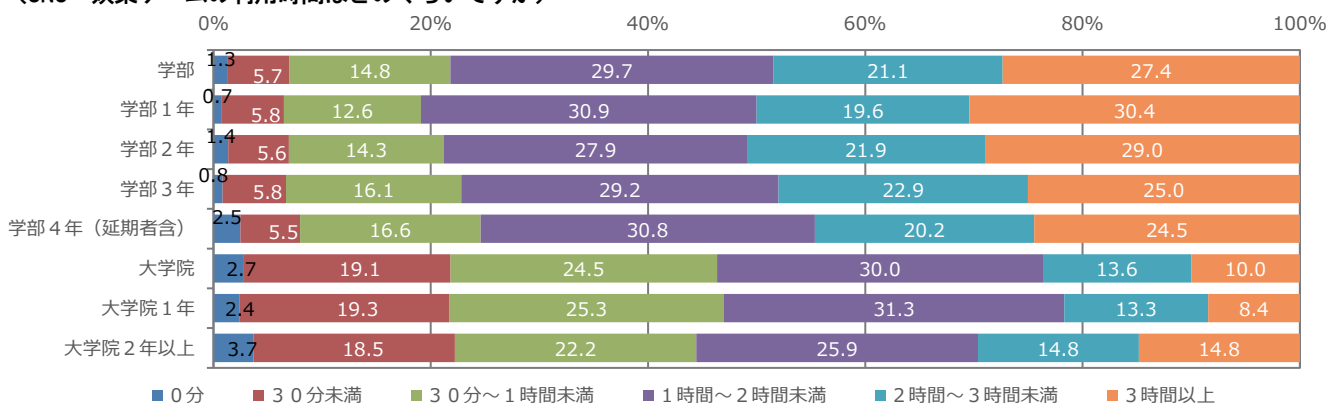
（パソコンやスマホ、タブレット端末の利用時間はどのくらいですか（SNSや娯楽ゲームを除く））



### オ. SNSや娯楽ゲームの利用時間はどのくらいですか

SNSやゲームの利用時間は、学部生、大学院生ともに1時間～2時間未満が、最も多いようです。毎日1時間以上利用する学生の割合は、学部で78.2%（前回調査時63.6%）、大学院で53.6%（前回調査時39.0%）、この割合は学年での変化はほとんどなく、SNSやゲームに対する学部生と大学院生との接し方の違いを示しているようです。新型コロナウイルス感染拡大による生活スタイルの変化等が影響を与えている可能性も考えられますが、前回調査時と比べて1時間以上利用する学生の割合が増えていることについて、注視する必要があります。

（SNS・娯楽ゲームの利用時間はどのくらいですか）



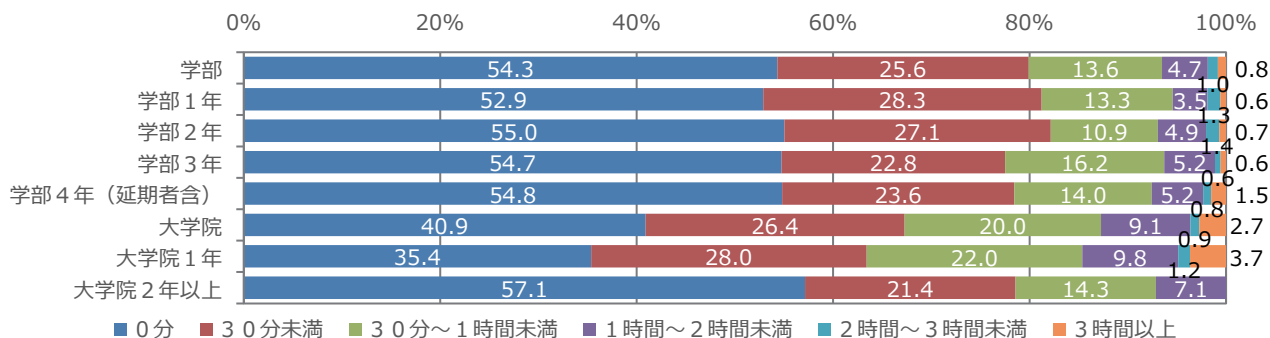
## <「趣味が読書」は少数派>

### カ. 趣味としての読書の時間はどのくらいですか

趣味としての読書時間については、学部生では全く読まない人が54.3%と最も多く、次いで30分未満が25.6%となっています。大学院生では全く読まない人こそ40.9%と学部生より13%ほど低下しますが、30分未満が26.4%あり、趣味としての読書時間が30分に満たない学生の割合はいずれも6割を超えています。前回のデータと比較してみると、この傾向は強まりつつあるようです。とりわけ大学院では前は0分、30分未満合わせて60.5%でしたから、実に6.8ポイントの上昇、趣味としての読書離れに拍車がかかっています。



(趣味としての読書の時間はどのくらいですか)

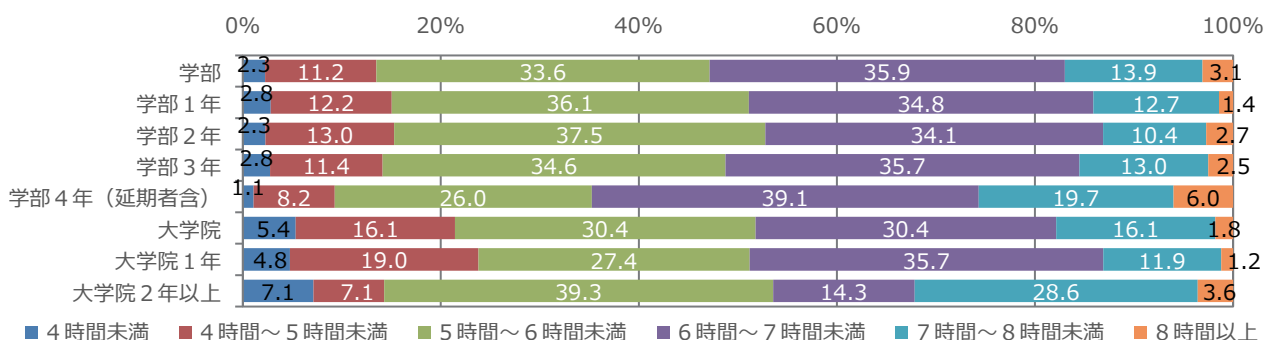


<半数の睡眠時間が6時間以下>

キ. 睡眠時間はどれくらいですか

健康に留意するならば、個人差はありますが6~8時間程度の睡眠が目安と言われています。本学の場合、学部生で47.1%、大学院生で51.9%の睡眠時間が6時間未満です。前回調査に比べて学部生が8%ほど低下しています。

(睡眠時間はどのくらいですか・全体)

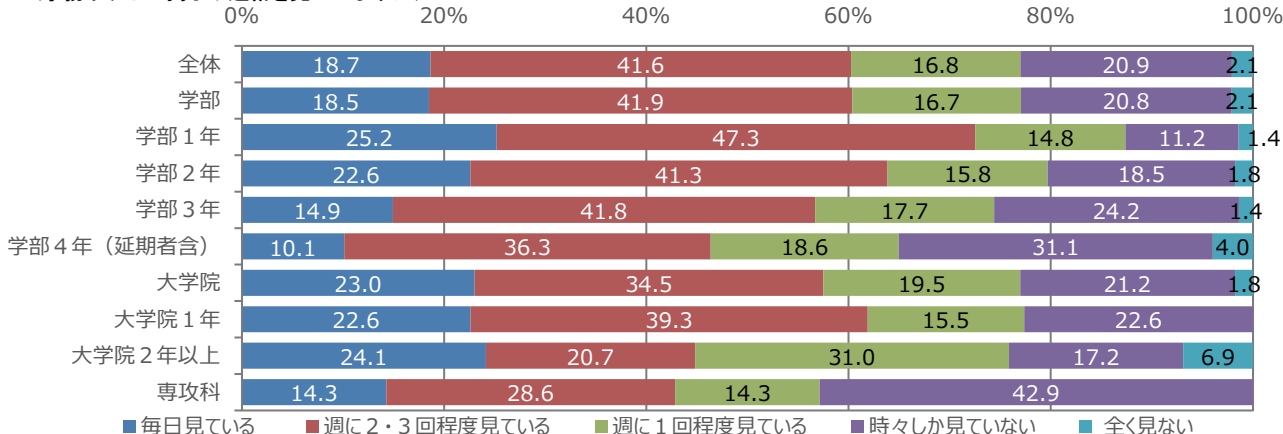


<学務ネットに改善の余地あり>

- 1) 学務ネットの掲示や連絡を見えていますか
- 2) 学務ネットの掲示や連絡を携帯・スマホに転送していますか
- 3) 学務ネットの掲示や連絡は学生生活に役立っていますか

学部生の80.7%、大学院生の73.4%が、学務ネットの掲示や連絡が学生生活に役立っていると答えています。そして学部生の84.0%、大学院生の96.4%が学務ネットの掲示や連絡を携帯・スマホに転送しています。つまりほとんどの学生が、学務ネットの有用性を知っていて、閲覧環境も整えているようです。それなのに23%の学生が、週に1回ほども学務ネットを見ていません。学部の1年生の頃は87.3%が週に1度は閲覧する習慣を持っていたのですから、学務ネットが役に立つことを知っていてよく閲覧していた学生が、学年が上がるにつれて徐々に学務ネット離れをしていった結果と読むことが出来そうです。

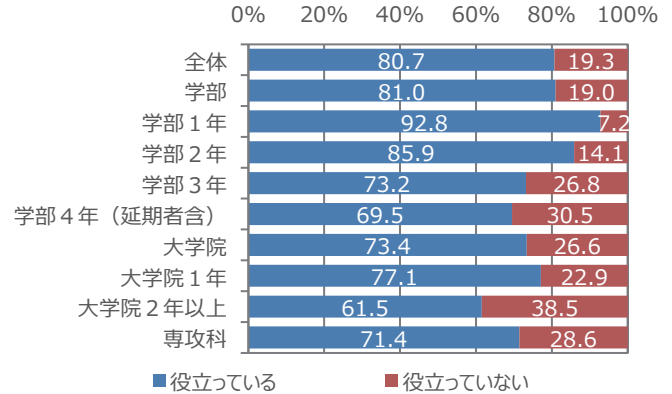
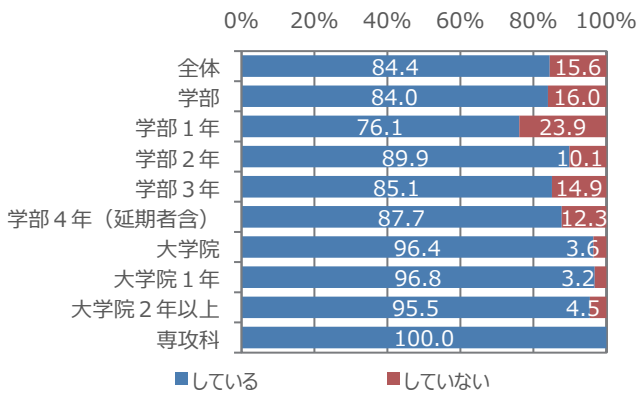
(学務ネットの掲示や連絡を見えていますか)



学務ネットに対する不満として、①転送されたメールで内容を確認できない、②自分にとって重要度の高い情報を選別する手間が面倒なこと、③ログインが面倒なこと、の3点が特に多いようです。これらが学務ネット離れの要因とあってよいでしょう。早急の改善が望まれます。

(学務ネットの掲示や連絡を携帯・スマホに転送していますか)

(学務ネットの掲示や連絡は学生生活に役立っていますか)

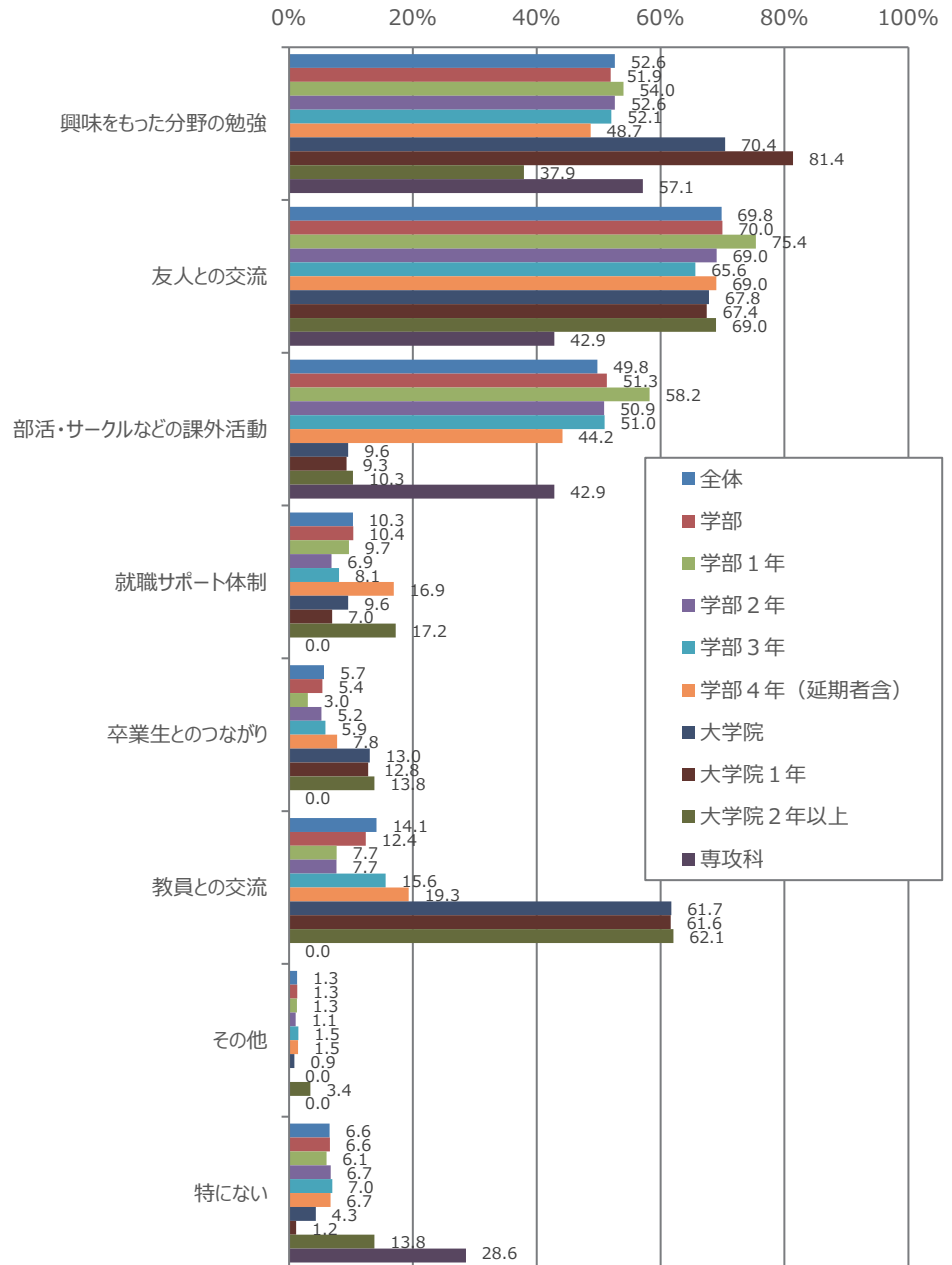


## ＜友人との交流、興味をもった分野の勉強＞

### 愛教大に入学して良かったと思う時はどのような時ですか

全学生を通して友人との交流を挙げた学生が最も多く、69.8%に達していました。これは教員養成を掲げる大学として、とても喜ばしいことです。

学部生と大学院生とを分けてみた場合、回答傾向はかなり異なります。学部生の場合は、友人との交流だけでなく、部活・サークルなどの課外活動、興味をもった分野の勉強が上位を占めます。大学院生の場合は、興味をもった分野の勉強、友人との交流が上位を占め、これに教員との交流が続きます。この差異は、学部生では友人関係の中にあつた生活の中心が、大学院生では研究環境にシフトしていくことを示すものでしょう。

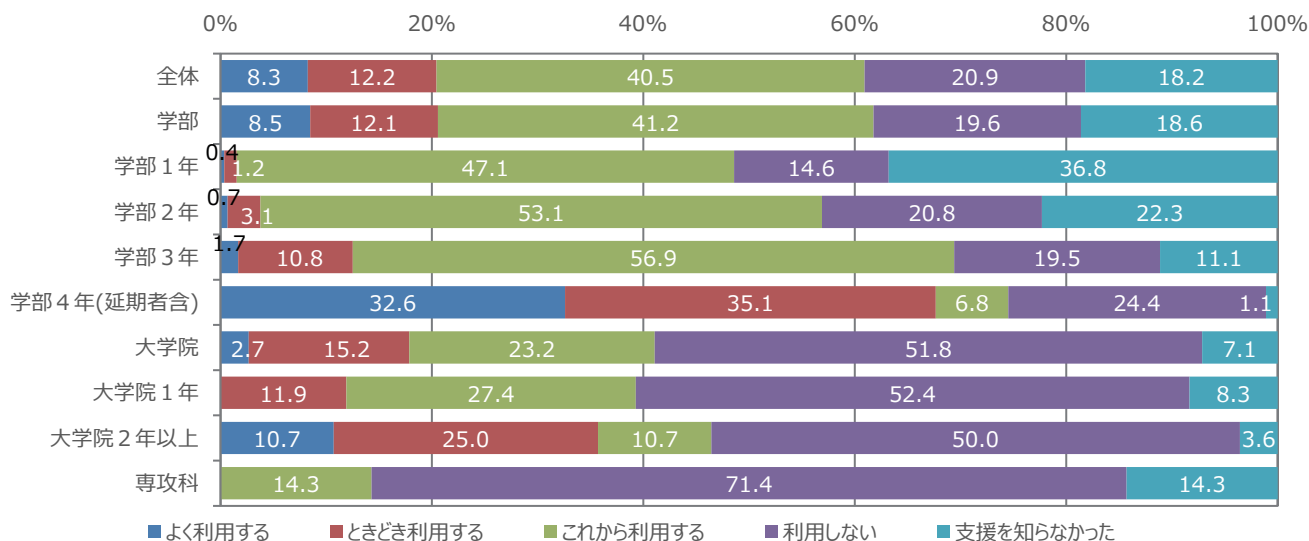


## 8) 就職活動の支援

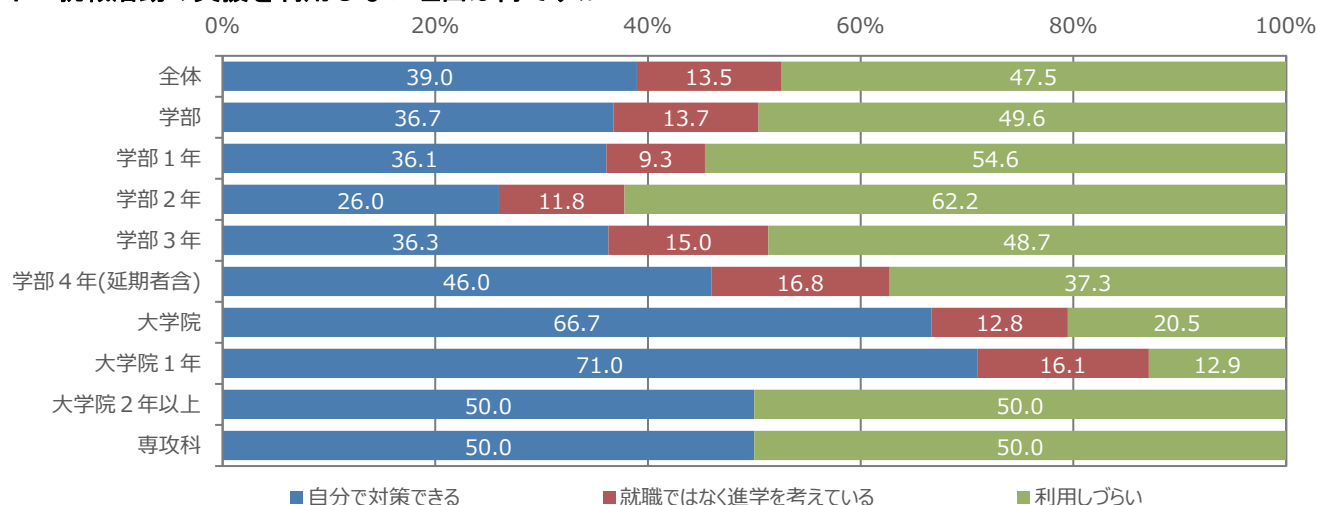
### <キャリア支援の活用を>



#### ア. キャリア支援課による就職活動の支援（就職ガイダンス、講義、相談等）を利用していますか



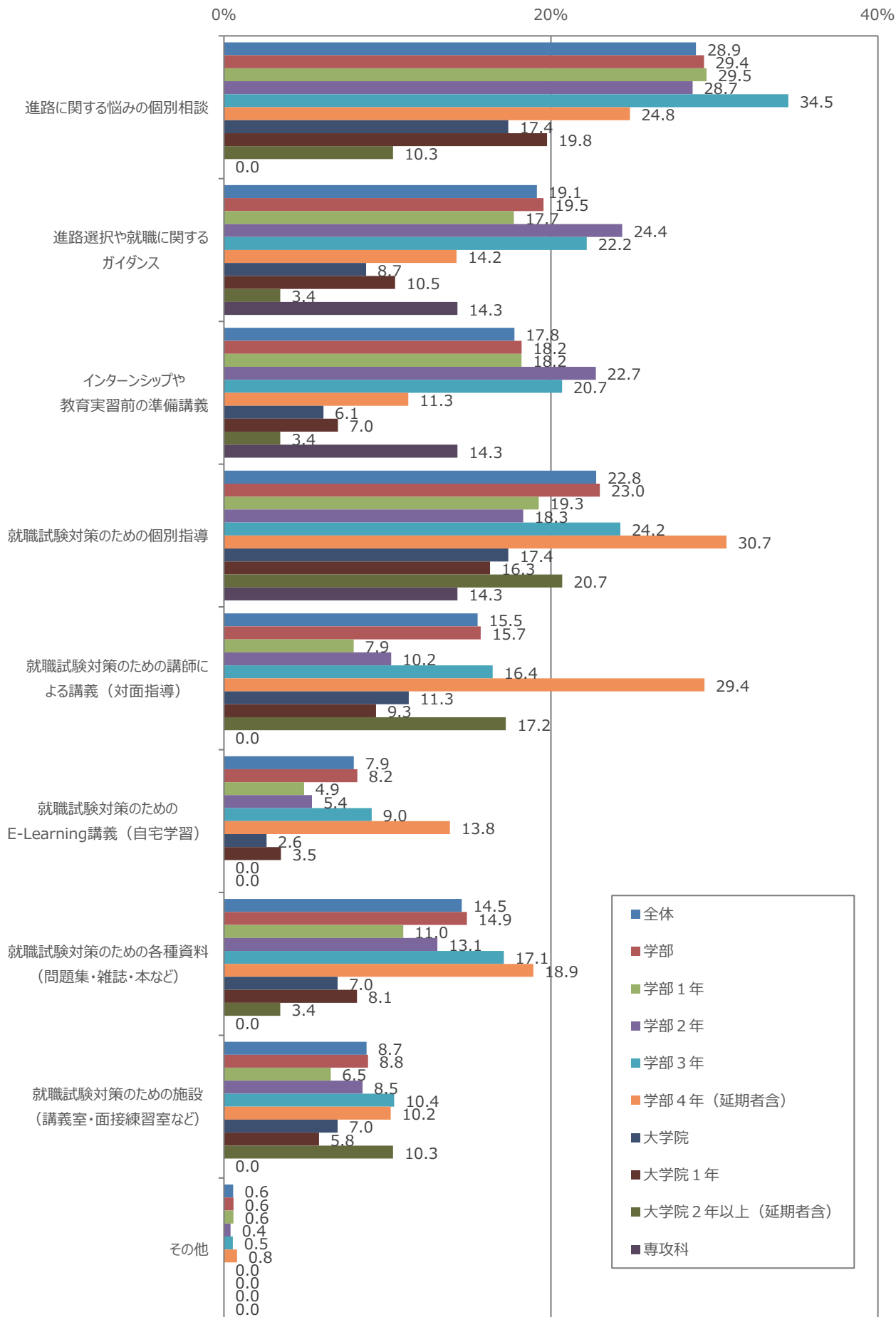
#### イ. 就職活動の支援を利用しない理由は何ですか



キャリア支援課による就職活動の支援については、学部1年生では36.8%が知らないようですが、学部3年生までには88.9%の学生が知っているようです。利用者は学部4年生で67.7%。前回調査時よりも4.6ポイント減少しています。一方で利用しないと答えた学部生は3年生の19.5%から4年生の24.4%へと約4.9ポイント上昇します。そして大学院生の半数以上が利用しないと答えています。

利用しない理由として、学部生は49.6%が利用しづらさを挙げています。個別回答を見る限り、この利用しづらさは、就職活動支援の具体的なメニュー・利用方法を知らないことや、敷居の高さに起因しているようです。そうした経験からでしょうか、学部4年生の46.0%、大学院生の66.7%が自分で対策できるから、と答えています。キャリア支援課をあてにしない就職活動へと学生は徐々に移行していくようです。個別回答を見ると、小中学校教員以外への就職志望者からの支援要望とのミスマッチもあるようです。実際には、本学は小中学校教員志望者以外へもさまざまな就職支援を実施していますから、そうした情報発信の工夫が望まれます。

ウ. 就職活動の支援でより充実させてほしいことは何ですか

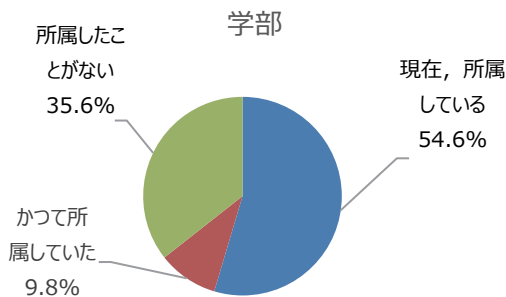


## 9) 課外活動

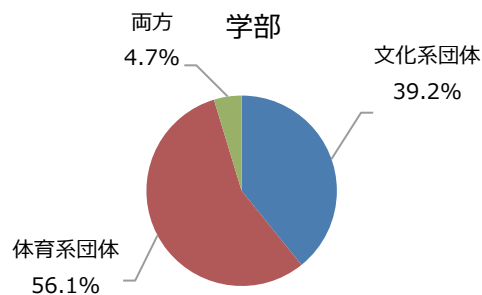
### <減少する課外活動団体加入率>

課外活動団体に所属している学部学生の割合は 54.6%、かつて所属していた学生の割合は 9.8%です。前回調査時には、合わせて 66.6%であり、減少する傾向が続いています。学生が所属している団体の内訳は、文化系 39.2%、体育系 56.1%、両方への所属が 4.7%です。活動状況については、ほとんど毎日が 9.1%、週に 3~4 回が 28.4%、週に 1~2 回が 46.5%、月に 1~2 回が 16.0%です。課外活動に参加している学部生にとって、課外活動が毎週の大学生活において重要な位置を占めていることがうかがえます。また、大学外の活動に参加している学生も 16.6%ほどいることが判明しています。しかしながら、本学の課外活動団体に所属している割合は減少を続けています。所属の動機については、「教養、趣味、特技の向上」、「友人を得るため」、「団体活動に魅力を感じて」、の順になっていますが、その他に「健康のため」など、さまざまな動機も挙げられています。一方、課外活動団体に所属したことがない学生(35.6%)について、その理由を尋ねたところ、「時間がない(遠距離通学・アルバイトなど)」が最も多く、次いで、「なんとなく」や「束縛されたくない」、「自分に適した団体がない」などの理由があげられていました。全体として、多くの学部生が課外活動を有効に活用していると考えられます。

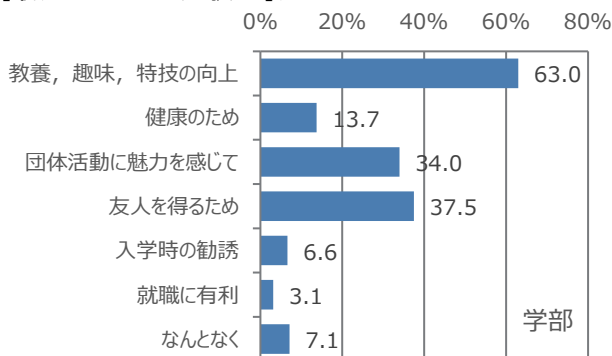
(本学の課外活動団体に所属していますか。)



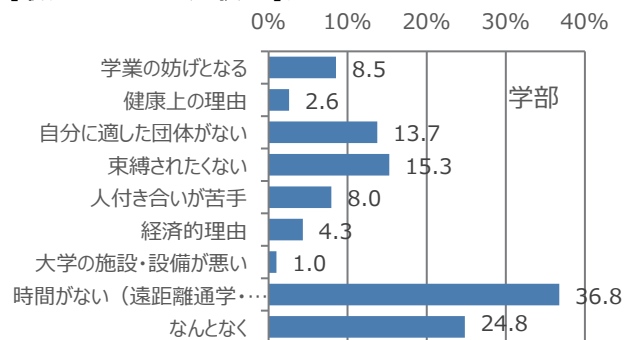
(所属している団体の区分をお答えください。)



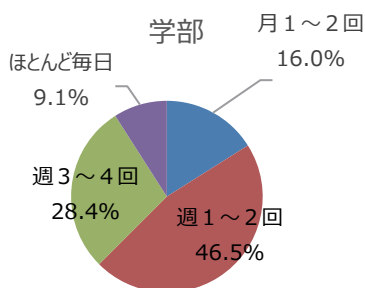
(所属したきっかけをお答えください。)  
[最大 2 つまで選択可]



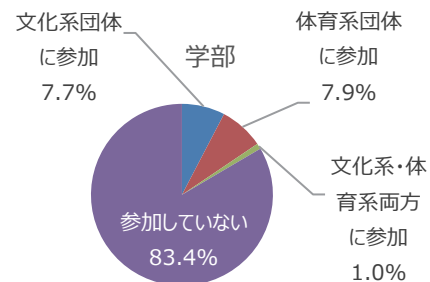
(所属していない理由をお答えください。)  
[最大 2 つまで選択可]



(活動状況をお答えください。)



(学外の活動に参加していますか)

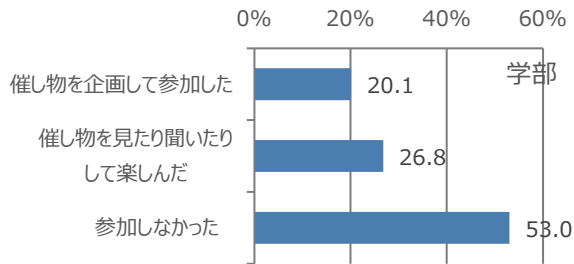




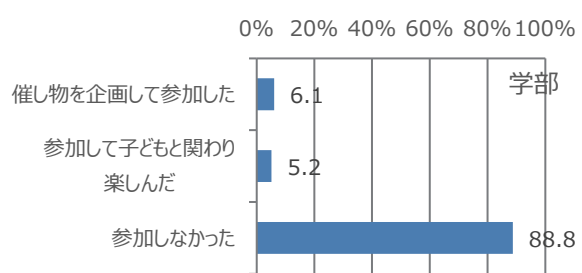
## <顕著な「まつり」離れ>

大学祭に参加した学生は学部生の46.9%であり、前回調査の57.2%と比べて減少しています。子どもまつりについては参加が11.3%で、こちらは前回調査の9.9%と比べ増加傾向が顕著ですが、依然大学祭に比べて参加者がかなり少ないことがわかります。参加しなかった主な理由は、大学祭では「興味がない」が42.8%、「バイトがあった」「部活・合宿があった」を合わせて88%であり、子どもまつりでは「興味がない」が39.7%、「バイトがあった」「部活・合宿があった」を合わせて86.9%でした。前回調査に比べて参加者が減少傾向であり、まつりよりも優先される活動が増えているようです。年2回の開催も、今後、大学祭・子どもまつりの開催意義と合わせて再確認する必要があるかもしれません。

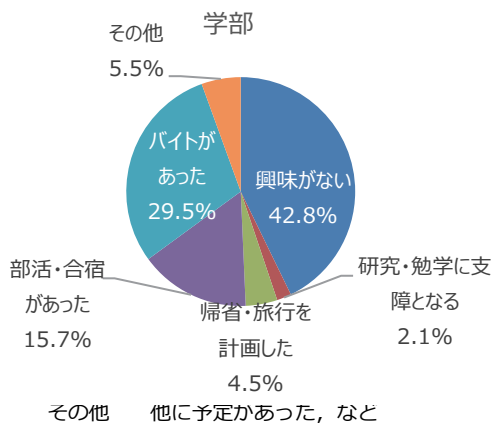
(大学祭に参加しましたか？[複数回答可])



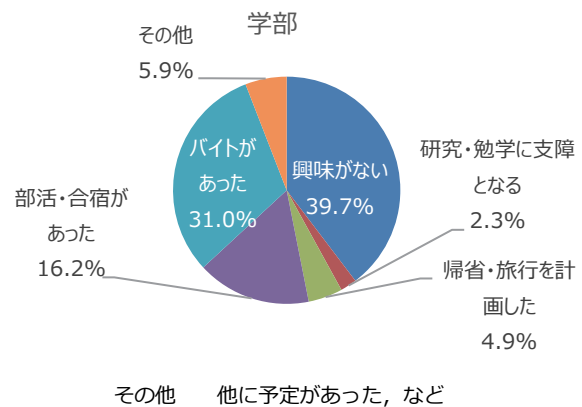
(子どもまつりに参加しましたか？[複数回答可])



(大学祭に参加しなかった理由)



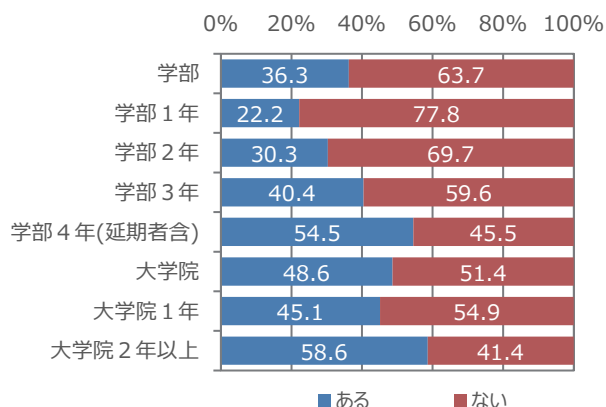
(子ども祭に参加しなかった理由)



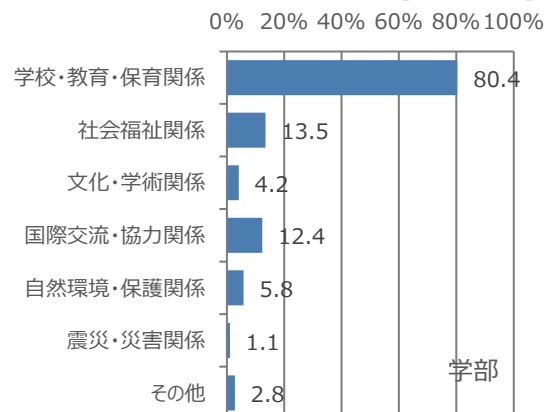
## <減少したボランティア経験者>

ボランティア活動については、大学入学後にボランティア活動の経験がある学部生の割合が36.3%で前回調査より6.2%減少しています。その内容の8割以上は学校・教育・保育関係でした。カリキュラムにも実践力育成科目が設置され、学校体験活動なども行われており、それらの活動の延長としてボランティア活動への参加するようになることが期待されます。

(入学後ボランティア活動の経験はありますか？)



(ボランティア活動の内容は何ですか？[複数回答可])



## 10) 施設

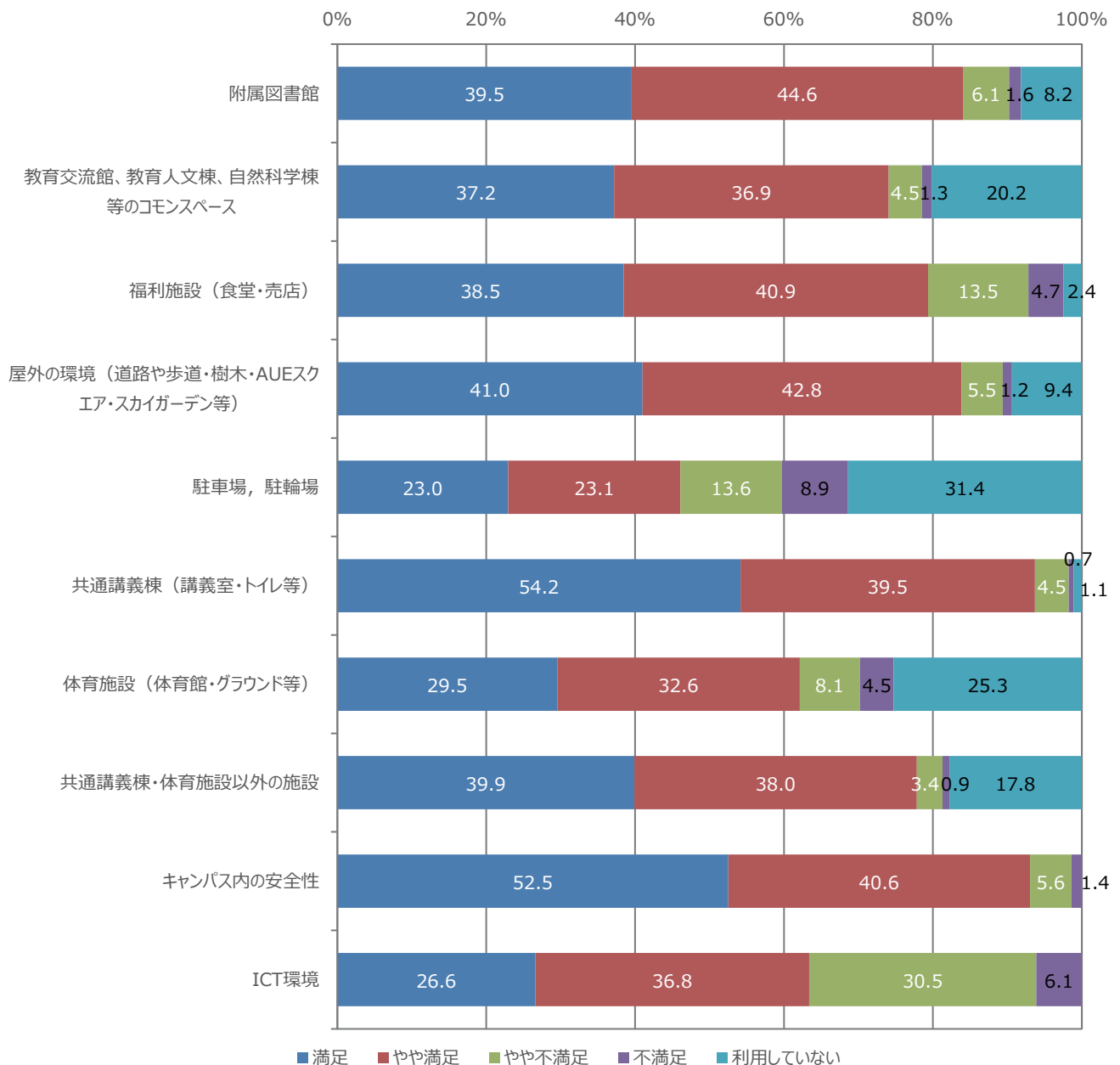
### <屋外の環境・施設では満足度が増加したが、依然駐車場問題は改善の余地あり、体育施設の満足度が大きく低下した>

#### 【全体的傾向】

前回の調査では10項目（附属図書館、自習室、福利施設（食堂・売店）、屋外の環境、駐車場・駐輪場、共通講義棟、体育施設、共通講義棟・体育施設以外の施設、キャンパス内の安全性、ICT環境）を調査しました。今回は「自習室」を「コモンスペース」とし、「屋外の環境」に括弧書きで詳細を追加したうえで、10項目について調査しました（下図参照）。

今回の調査では、特に満足度が多いもの（満足・やや満足）としては、附属図書館、屋外の環境、共通講義棟の施設が80%を超えています。特にキャンパス内の安全は前回の78.4%から93.1%へ、屋外の環境も75.3%から83.8%へと伸びています。逆に体育施設は前回の82.3%から62.1%に低下しています。

#### 「キャンパス内施設全般について」



### 【自由記述内容からみる満足度】

自由記述については後のページに記載してあるように、さまざまな意見が寄せられています。上記のデータと自由記述の内容と関連させてみると、次のようなことがわかります。

- ・「図書館」は、蔵書数等に不満は減少したものの、節電による館内温度などの環境面での改善要望が見られ、満足度が低下しています。
- ・「自習室（コモンスペース）」は、満足度が若干上昇しました（73.1%→74.1%）。使い勝手が良いという意見がある一方、うるさくて集中できない、飲食ができない、利用できる時間が短いといった意見がありました。コモンスペースの利用のルールを見直す必要があるようです。
- ・「福利施設（食堂・売店）」は、満足度が80%を切っています。価格への不満が376、混雑・品数への不満が100以上あることから、工夫・改善の余地があるでしょう。
- ・「屋外の環境」は、大学は自然豊かな環境の中にあるものの、管理ができていないことや、虫が出ること、日陰が少ないこと、移動が不便であることに不満を持つ学生が多いようです。
- ・「駐車場・駐輪場」は、前回の調査でも満足度が最も低かった項目です。ただ、前回調査で満足度が43.2%だったものが、今回調査では46.1%へと3ポイント伸びました。しかし、後の自由記述をみれば、駐車場について不満は相変わらず多いです。
- ・「共通講義棟」は、室内温度については改善傾向が見られるものの、ICT環境に対する不満が目立ちます。
- ・「体育施設」は、全体で見ると、前回データでは満足度が82.3%でしたが、今回は62.1%と大幅に低下しています。自由記述をみると、テニスコート、グラウンド・コンディションや体育設備に対する不満（特に暑さ）がみられます。
- ・「共通棟・体育施設以外の施設」は、建物の老朽化などがあり、特に文化系サークル棟についての記述が多いです。
- ・「キャンパス内の安全性」については今回調査では93.1%へ上昇しています。しかし、交通マナーの悪さに関する不満がみられます。
- ・「ICT環境」は、Wi-Fi環境の悪さの記述が38ありました。また、ログイン方法等の改善についての記述もありました。

### 【自由記述内容】

以下は、キャンパス内施設全般について満足していないこと（自由記述）です。括弧内は、昨年の実数を示しています。（母数が異なるため、単純に比較はできませんが、前回より改善したものには△、悪くなっているものには▼をつけました）

#### 附属図書館で満足していないこととして多いもの

- ・ △ 蔵書関係の不満（蔵書数の増、一般小説の増、新刊本の増） 115（216）
- ・ △ 座席数の不満 22（139）
- ・ ▼ 館内温度の不満（空調の効きが悪い、使える時期が短いなど） 354（84）
- ・ △ 閉館時間の不満 22（31）
- ・ △ 利用マナーが悪いことへの不満 22（29）
- ・ ▼ 飲食スペースの不満 24（16）

#### 自習室（コモンスペース）で満足していないこととして多いもの

- ・ △ 座席数（スペース）の不満 57（239）
- ・ ▼ 快適性が悪いことの不満（暑い、狭い、臭い、利用できる時間が短いなど） 154（116）
- ・ △ 利用マナーが悪いことの不満 32（58）
- ・ ▼ 自由に利用できないことの不満（飲食ができる場所を増やして欲しい、話ができるスペースが欲しいなど） 37（31）

#### 福利施設（食堂・売店）で満足していないこととして多いもの

- ・ ▼ 値段の不満 376（234）
- ・ △メニュー（品数・味）の不満 133（224）
- ・ △混雑状況の不満 140（170）
- ・ △営業時間の不満 59（73）
- ・ △座席数（スペース）の不満 11（63）

### 屋外環境で満足していないこととして多いもの

- △ 自然環境への不満（虫やハチが多い、坂が多いなど） 70 (156)
- △ 管理が出来ていないことへの不満（汚い、整備されてない自然が多いなど） 44 (109)
- △ 休憩スペースの少なさの不満（日陰の休憩スペースが欲しいなど） 46 (100)
- △ 建物間の移動の不満（遠い、屋根付きの通路がないなど） 31 (84)

### 駐車場・駐輪場で満足していないこととして多いもの

- △ 駐車場が足りないことへの不満 316 (480)
- △ 駐車場環境が悪いことへの不満（遠い、違法駐車が多いなど） 206 (207)
- △ 駐輪場環境が悪いことへの不満（遠い、屋根が付いていない、蜘蛛の巣が張っているなど） 52 (109)

### 共通講義棟で満足していないこととして多いもの

- △ トイレに対する不満（数が少ない、2階の男子トイレが1カ所しかない、清掃のタイミング、ジェットタオルの使用禁止など） 80 (208)
- △ 清掃・利用状況の不満（汚い、臭う、虫が出る、席が足りないなど） 65 (109)
- △ 室内温度の不満（温度を個別管理に変更、使える時期、換気など） 14 (75)
- ▼ Wi-Fi、無線LAN、充電コンセントの不満 23 (20)

### 体育施設で満足していないこととして多いもの

- △ グラウンド・コンディションが悪いことへの不満（芝生が整備されていない、でこぼこ、怪我の恐れがあるなど） 88 (170)
- ▼ 体育館の整備に対する不満（雨の日に床が滑る、雨漏り、暑い、風通しが悪いなど） 222 (133)
- △ トレーニングセンターの不満 14 (64)

### 共通棟・体育施設以外の施設で満足していないこととして多いもの

- 文化系サークル棟・部室の老朽化の不満 18
- 教育支援棟の老朽化の不満 15
- △ 音楽棟に対する不満（暑さ、調律不備など） 10 (45)

### キャンパス内の安全性

- △ 不審者対応・警備・セキュリティ 39 (320)
- 蜂などの虫が多い 30 (前回データなし)
- 交通マナーの悪さ 23

### ICT環境（前回、自由記述データなし）

- AUEWLANの不安定さなど 38
- パスワードの煩わしさ 8



自然科学棟



美術・技術・家政棟

## 11) 大学に期待すること

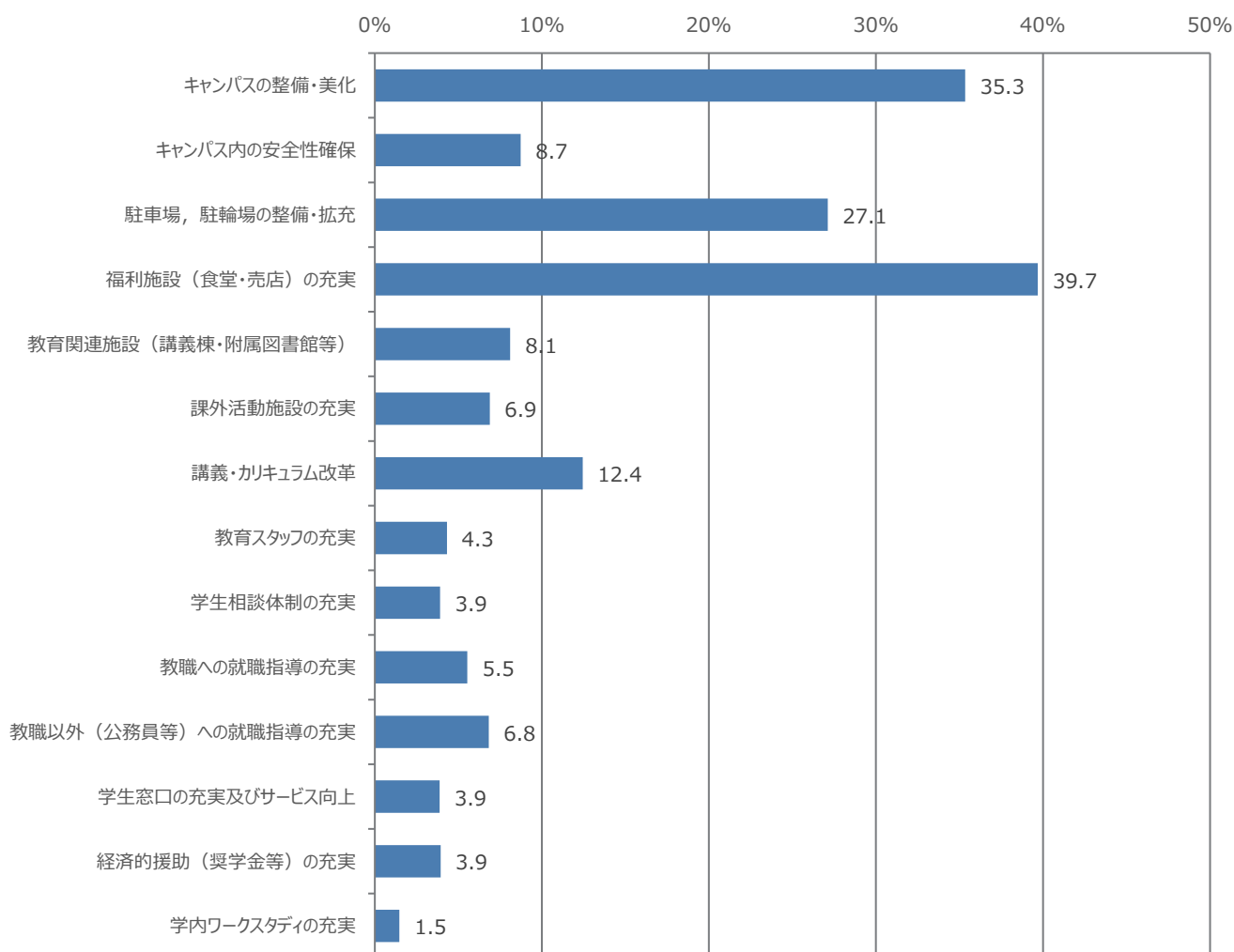
### <学生の期待は「福利施設(食堂・売店)の充実」「キャンパスの整備・美化」そして「駐車場・駐輪場」>

下のグラフあるように、今後、大学が優先的に取り組んでほしいこととしては、「福利施設(食堂・売店)の充実」と「キャンパスの整備・美化」が共に4割弱と前回調査と同様に多くなりました(選択式で複数回答可)。上位3項目を比較すると、「福利施設」「駐車場・駐輪場」が微増し、「キャンパスの整備・美化」が若干減少した結果となりました。その一方で、今回4位「講義・カリキュラム改革」と5位「キャンパス内の安全性確保」は各々6.6ポイント、4.4ポイントと減少しています。この4年間で施設等のハード面及びソフト面が改善されていると言えましょう。次の自由記述も併せてご覧ください。

○自由記述(大学への要望・期待)から

記述された169件の意見を大別すると、1位は「施設」関係の要望(36.7%)、2位「教員・職員」関係の要望(18.9%)で前回と同程度でした。3位の「授業・教育」は18.3%と約7.5ポイント減少しています。次いで「通学」11.8%、「進路・就職」6.5%の順でした。寄せられた具体的な意見は次ページの表のとおりです。節電に対する意見、運動系施設の整備、授業に対する改善、職員の態度改善、バスの運行についての要望が多くみられます。

(今後、愛知教育大学に優先的に取り組んでほしいことは何でしょうか?)(複数回答)





(学生生活全般について、大学へ期待することなど、ご意見があればお聞かせください)(自由記述)

項目・件数	主な意見項目	件数	主な具体的意見
施設 62 (36.7%)	ネット環境等の整備	10	Wi-Fi環境の拡充(全教室で、接続が切れやすい) / 学務ネットの連絡通知がメールで確認できない / ログインが面倒
	空調・エアコン	5	エアコンが授業の開始・終了のタイミングで自動的に切れるようになっている / 節電なのにエアコンの設定温度が低い
	学生が多く利用する建物の美化	2	教育支援棟を綺麗にしてほしい / 道路が木の葉で汚い
	運動系施設の整備	10	グラウンドがでこぼこしていて危険 / 人工芝を希望 / 体育館附属屋にエアコンの設置 / 武道場にエアコン / テニスコートをおムコートに / 体育館の補強工事 / 部活で使う場所も草刈りしてほしいです。
	駐車場の整備	5	1年生から車を利用したい / 不正駐車を取り締まり
	コンビニ等の新設	4	コンビニ / カフェの新設
	生協・食堂の改善	2	値段高すぎる / おにぎりを食堂パスで買えるようにしてほしい
	図書館の充実	2	図書館の冷房をつけて欲しい / 図書館に小説も置いてほしい
	節電	11	オンデマンドやリアルタイム遠隔で家で行う方が快適である / 電気代高騰のせいでサークル活動が思うようにできない / サークルの講堂の使用を制限するのは絶対に間違っている / 節電対策と云い学生に我慢を求めている状況は言語道断である。学生が快適に勉強できる環境を整えられないのか / 電光掲示板で節電を呼び掛けるのはなんだか矛盾を感じてしまいます / 節電とはいえトイレの便座の電源は切らないでください / 節電の紙を学内の至るところに貼っているが、学外者から見たら貧相な大学だという印象を与えかねない
	その他	11	サークルで体育館をつかいたい / 空き教室を解放して欲しい / ご飯を食べたりできる場所が欲しい / 課外活動で講堂を使用したい / 雨に濡れないルート / 学生寮ももっと充実させてほしい / 健康支援センターがいつもいっぱい利用できなかった
授業・教育 31 (18.3%)	カリキュラムの改善	12	教育を学びたい人=教員志望とは限らない / 学校教員になる人で自ら外に出ない人にこそもっと外との関わりができるようになったらいい流れができるのではないかと思います / 副免として中学校2種の免許を取れる専攻、専修の学生に関して、入学後のガイダンスを副免の教科のものも受けられるようにして頂きたいと思いました。私の場合は、特別支援教育専攻のガイダンスに加えて、音楽専修のガイダンスにも参加させて頂きました。音楽の授業に参加して初めて、実技系のピアノや声楽の授業は135分授業であることを知り、履修登録において不具合が生じました / 大学を卒業して即戦力となれるような、実践性の高い教育体験、講義、模擬授業がある講義を増やしてほしい / 社会科では社会科の学問を追求する教員が減る一方で社会科教育ばかりの社会科専修になっている。研究では社会科教育ではなくそのほかの学問をやってみたいと言う願いが叶いづらくなっている / ほとんど授業選択の自由がない現状をどうにかしてほしい。よくない授業を続ける教員の温床となっている
	授業に対する改善	18	大雨なのに休校しなくて帰れなくなった友達がいる。判断を早めにしてほしい / 部活動において、大会の規定により平日に授業を欠席して大会に参加しているにも関わらず、公休にならないことを改善してほしい / 土日での野外実習が毎週行われている時期は、自主学習はおろか宿題も満足に行える時間が取れません。その影響で睡眠不足の学生が多いため、頻度を下げるか平日の業後に行う事を希望 / 英語教育のレベルが低いことに驚いたので、もっとレベルの高い内容をやって欲しい / 授業アンケートをしっかりと取っていただいているので、それがもっとダイレクトにいい意味でも悪い意味でも教授の立場を揺るがすようなものになってくれるといいと思う / 長期休暇中に出席必須の集会などを開催しないでほしい。帰省に時間とお金がかかるため / 実習によるやむ終えない欠席は公欠として欲しい / ガイダンスの日程や講義日程はどちらも必修であるのに、連携が取れておらず日程が重なることが多いので改善してほしい
	教員の増員	1	社会科に日本史の先生と自然地理の先生を増やしてください
教員・職員 32 (18.9%)	教務企画課の態度改善	15	対応が遅い / 無愛想 / 電話対応が非常に悪い(電話を受けた際に名乗らない等) / 高圧的 / 連絡が遅い
	学生支援課の態度改善	6	書類に目を通さずに許可を出し、誤った情報を伝えてくるので大変心配 / 対応が悪い
	教員の態度改善	2	学習に適切で実力/実績のある教員の採用(常勤非常勤共に) / 教員の授業の質にややムラがある
	日程等の連絡を早く	9	教育実習の事前指導の日程が未だに確定しておらずの上それが確定するまで8月下旬の予定を入れるなど命ずるのはあまりにもいかなるものか / 部活動に所属しているため、入構禁止になる日のお知らせを早めに、分かりやすく知らせてほしい
進路・就職 11 (6.5%)	企業就職支援の充実	2	企業就職者への支援の充実、企業就職者同士の交流をしたい / 教員以外のキャリア選択を幅広く提示してほしい
	教員就職支援の充実	3	教採対策を講座で行うのではなく、履修すれば講義として誰でも受けられるようにしてほしい / 名古屋市教員採用試験の支援体制が整いきっていないように感じる。過去の資料などをネットで閲覧できるようにしてほしい / 静岡県教員採用試験についての情報をもっと得たかった
	その他	6	現在教員を目指していない者に対しても、同じように支援を頂けないでしょうか / 教員以外への就職指導をもっと充実して欲しい / 進学に関するサポートをより手厚くして欲しい / 内部進学者の大学院の費用軽減 / 県外就職者にも対応してほしい
通学 20 (11.8%)	バスの運行について	15	名鉄バスの運賃が高い / 本数を増やして欲しい / バス停が遠すぎるので自然科学棟の方にもバス停が欲しい / 大学専用バスを作してほしい
	公共交通機関の改善	5	駅から大学が遠くアクセスが悪いのを、なんとかならないと思いますが、何とかして欲しい / 1年生や車を持っていない人のための交通の便の向上に非常に期待しています
その他 13 (7.8%)	経済支援	3	研究費が少ない / 部活動への経済支援を充実して頂きたい / サッカー部への支援をもう少し充実させてほしい
	学生のマナーが悪い	1	身の回りで先輩に飲酒させられたという話をよく聞く。ちゃんと取り締まって欲しい
	その他	5	キャンパスの安全性もお願いします / もっと地元の人たちが気軽に大学を訪れることができる、開放的な場所になると、もっと楽しくなると思います / 男女間との交流機会の増加 / もっと相談しやすい環境を作って欲しい / 先日のキャンパスクリーンの際に、開始直後に雷雨となり中止となったが、もっと早く中止の判断ができたのではないかと疑問に思った



## 12) 総括

今回の調査は Web 入力方式で実施しました。全体で 80.0%と多くの回答を得ることができ、学生の意識をおよそ網羅するデータになったと考えます。今回の調査を通して明らかになった学生の意識や実態の特徴をまとめると以下のとおりです。

### ○経済状況等が及ぼす学生生活への影響

学生を取り巻く経済状況が徐々に改善の様子がうかがえます。例えば、家庭からの支援を受けていない下宿学部生が前回の 20.5%から 16.8%に減少しました。支援がある下宿学部生の場合でも、3 万円以上を援助する家庭が 67.9%から 68.6%に若干増加しました。大学院生では自宅生の約 34.2%（前回 37.5%）が授業料を自分で負担しています。

社会的な賃上げの動きも影響したのかアルバイトで得る収入は増加し、5 万円以上になる学部生が 48.9%（前回 45.2%）、大学院生は 46.3%（同 42.3%）に増加しています。

アルバイトに費やす時間も 3 時間以上の自宅学部生が 65%、下宿学部生は 77%となり、前回の 61%（自宅学部生）、69%（下宿学部生）より増加しました。特に下宿生は学部生・大学院生ともに 4 人に 1 人が毎日 5 時間以上のアルバイトをしています。

授業以外での学習時間について、1 日 1 時間未満の自宅学部生が 62.4%、下宿学部生が 61.6%となり、前回（71.6%：自宅学部生、68.3%：下宿学部生）よりもこの傾向は全体として減少しましたが、依然高い割合といえます。一方、大学院生はこのような状況下でも自宅生の 82.1%、下宿生の 74.0%が 1 時間以上の自主学習に取り組んでおり、前回とほぼ同様の状況が見られます。

課外活動では加入率が低下し、学部生は 54.6%（同 55.4%）に留まっています。加入者の活動日数は毎日が 9.1%、週に 3~4 日が 28.4%であり、多くは週 1 日程度です。課外活動の不参加傾向がうかがえます。不参加の主な理由は「時間がない」です。このように自宅生が 77%を占める本学では、通学やアルバイトの長時間化が、結果的に自主学習や課外活動時間を削減する方向に影響しているのではないかと考えられます。

その一方で、SNS や娯楽ゲームの利用時間が 2 時間以上の学部生が 48.5%（前回 32.6%）、大学院生も 23.6%（同 18.0%）あり、前回調査より増加していました。また、睡眠時間は 6 時間未満の学部生が 47.1%（同 55.2%）、大学院生は 51.9%（同 49.7%）となっており、睡眠不足の傾向が続いています。

### ○通学状況

自宅通学生が前回と同様に 76.9%と多く、公共交通機関を利用する自宅学部生が 63.6%、通学時間が 90 分以上になる自宅学部生も 37.9%と、前回とほぼ同様の状況です。そのため、自宅学部生は交通費及び通学時間、電車・バスの便数に対し不満をもっており、その自衛策として自動車通学者が前回より少し増加（29.6%から 31.1%へ）していると考えられます。特に学部 3 年生は 6 ポイント増の 48.9%、4 年生は 47.4%、大学院生は 52.9%で 5 割近くが自動車通学です。このことは、結果として駐車場不足と駐車場内での事故の多発を招いていると考えられます。なお、駐車場・駐輪場に対する不満は前回 31%から 23%と 8 ポイント低下しており、この 4 年間で改善されたことがわかりますが、引き続きアクセスの利便性を図っていくことが必要でしょう。

### ○就職活動への支援

就職支援については、学部 1、2 年生において「これから利用する」「支援を知らなかった」とする回答が大部分を占めるものの、4 年生では「利用する」が 7 割に達していました。しかし、大学院生では 2 割に留まっています。利用しない理由としては、「自分で対策できる」とする意見が大学院生で 7 割を占めています。学部 3 年生では「利用しづらい」が半数を占めており、その具体を明らかにして支援態勢を改善することが必要でしょう。充実させてほしい支援としては、「進路に対する悩みの個別相談」「就職試験対

策のための個別指導」が学部・大学院ともに高くなりました。集団での指導やガイダンスが充実する中で、「個別」の支援が求められていると言えます。

### ○学生支援体制の状況

指導教員を知っている1年生は67.3%（前回72%）、オフィスアワーを知らない1年生が32.5%（同40%）と減少しており、教員と話す機会も「ない・ほとんどない」1年生が37.8%（同38%）と前回調査とほぼ変化がないことから、教員との交流の機会が増えていないことがわかります。教員との定期的な面談を希望する学生は全体でわずかに4.9%ですが、勉学に対する心配事・悩みを1年生の4割以上が抱えています。相談相手について学部生は「父母」が85.4%（同82%）と最多で前回より若干増加していますが、ゼミ所属が決まらない1、2年生段階での指導教員の役割も、大学生活への適応支援の点では重要ではないでしょうか。なお、全学生の中で相談できる場所を知っている学生は71.3%（同77%）であり、引き続き認知度を高める働きかけが必要です。

### ○課外活動と本学の魅力

課外活動の短時間化・不参加傾向については前述したとおりですが、その他、大学祭への参加率も46.9%（前回57.2%）、子どもまつりは11%（同10%）と低下傾向及び低迷が続いています。不参加の理由は「興味がない」が半数近くを占めています。課外活動に不参加の理由も、前述の「時間がない」の他、「なんとなく」「束縛されたくない」が続いています。学校体験活動等の実践的活動がカリキュラムに導入され、日常的に子どもと関わる機会が増加した影響もあるのかもしれません。一方、「本学に入学して良かったと思う時」は「友人との交流」「興味のある分野の勉強」「部活・サークルなどの課外活動」との回答が学部生で多くありました。課外活動や諸行事への参加は協同性を始め人間性を向上させる上で有効です。そして、それが本学の大きな魅力の一つでもあります。これらの活動や様々な学生主体の活動が継続・発展していけるような支援が必要でしょう。

### ○建物・学習環境・生活環境に対する意識

この4年間で構内の建物改修等が進み、施設に対する満足度が上昇しました。特に屋外環境83.8%（前回81.0%）、共通講義棟93.7%（同83.0%）等の満足度が高いです。駐車場・駐輪場は46.1%（同43.0%）、ICT環境で、満足度は63.4%（同53.0%）と依然満足度は低いものの改善されました。一方、今回も問題になったのは体育施設の満足度の低下62.1%（同82.3%）で前回の82.3%から62.1%へと約20%低下しています。具体的には、体育館の暑さやグラウンドの整備について改善の要望が出されています。また節電による図書館の空調に対する改善の要望（温度設定が不適切）や、福利施設（食堂・売店）の値下げやメニューや品揃えのバリエーションの増加の要望も出されています。今後も、ハード面及びソフト面での環境整備も必要でしょう。

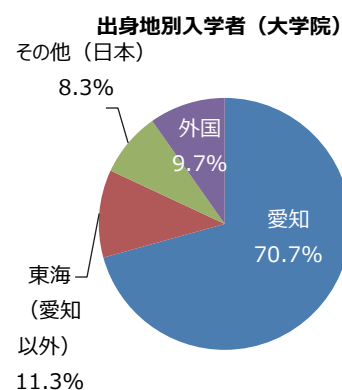
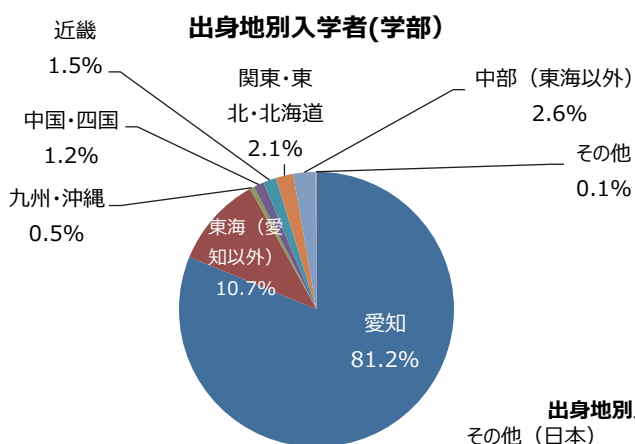
本学公式マスコットキャラクター  
愛教ちゃん



## 13) 参考資料

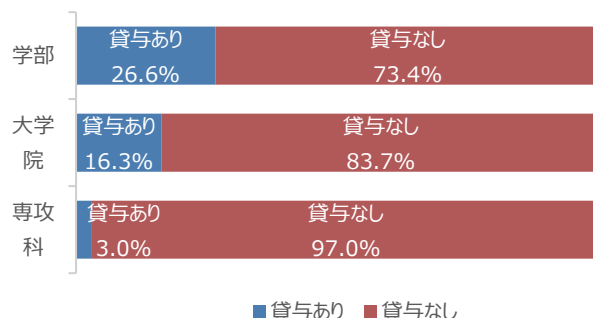
出身地別入学者(学部) [人]	
愛知	748
東海（愛知以外）	99
九州・沖縄	5
中国・四国	11
近畿	14
関東・東北・北海道	19
中部（東海以外）	24
その他	1
	921

出身地別入学者(大学院) [人]	
愛知	94
東海（愛知以外）	15
その他（日本）	11
外国	13
	133



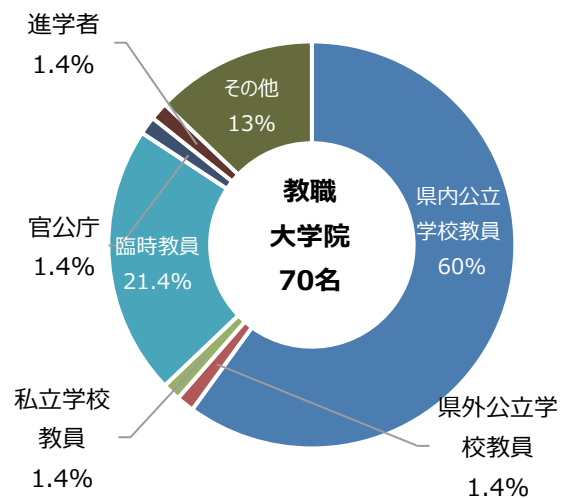
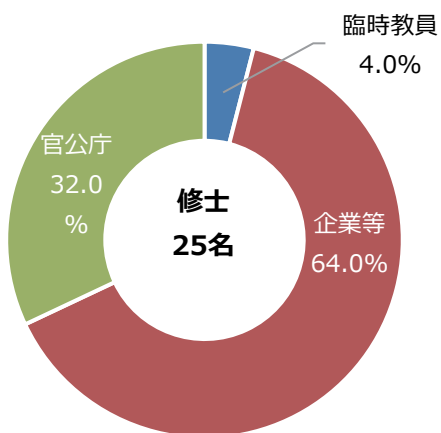
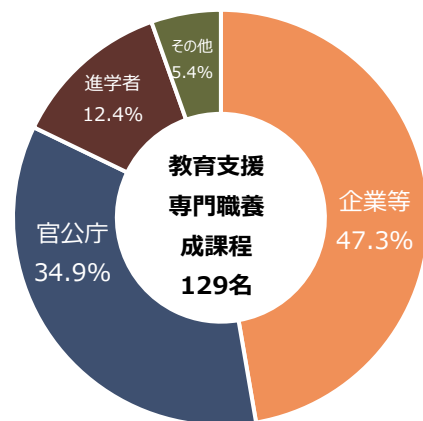
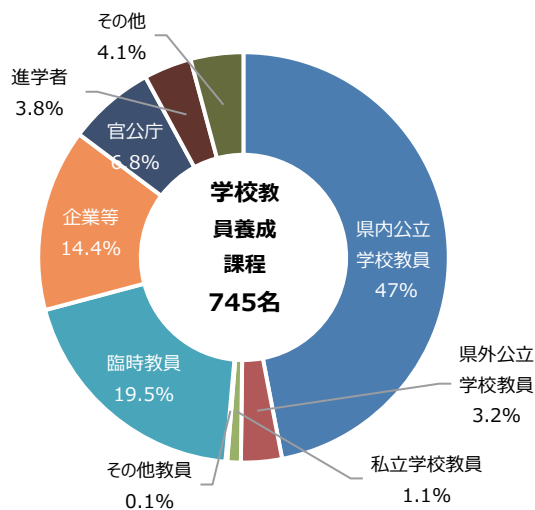
令和4年度 奨学金貸与者

令和4年度日本学生支援機構奨学金貸与者数 [人]			
	在学者数	貸与あり	貸与なし
学部	3711	988	2723
大学院	208	34	174
専攻科	33	1	32



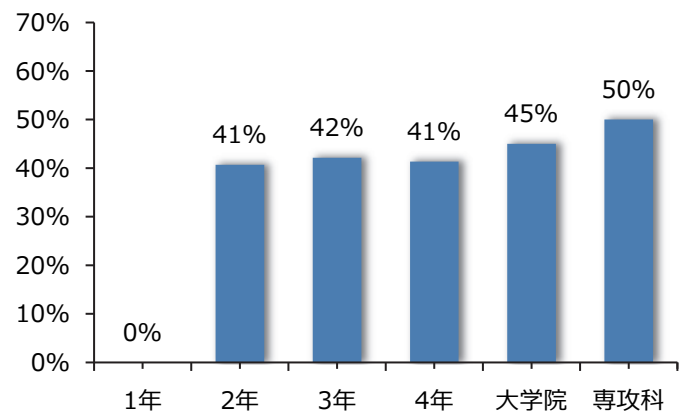
令和4年度授業料免除申請状況													
所属	学年	在学者数	前期					後期					
			免除許可				計	免除許可				計	
			全額免除	2/3免除	1/3免除	家計急変		全額免除	2/3免除	1/3免除	家計急変		
学部	1年	906	41	14	13	0	68	34	21	7	2	64	
	2年	902	37	22	13	1	73	41	25	5	1	72	
	3年	902	36	22	9	0	67	31	23	11	0	65	
	4年	1001	39	11	8	1	59	34	15	8	0	57	
	合計	3,711	153	69	43	2	267	140	84	31	3	258	

令和4年度卒業生就職状況		学校教員 養成課程	教育支援専門 職養成課程	大学院 修士課程	教職大学院
教 員	県内公立学校教員	350	0	0	42
	県外公立学校教員	24	0	0	1
	私立学校教員	8	0	0	1
	その他教員	1	0	0	0
	臨時教員	145	0	1	15
企業等	企業等	107	61	16	0
官公庁	官公庁	51	45	8	1
進学者	進学者	28	16	0	1
その他	その他	31	7	0	9
合計	合計	745	129	25	70



令和4年度 四輪車入構登録			
	学生数 [人]	登録者数 [人]	登録率
学部1年	906	0	0.0%
学部2年	902	367	40.7%
学部3年	902	380	42.1%
学部4年	1001	414	41.4%
大学院	246	95	45.0%
専攻科	34	17	50.0%

令和4年度 四輪車入構登録率



\* 障害者・来客用等除く、非常勤講師・教職員専用含む

令和5年度 学生生活実態調査報告書

---

令和6年3月発行

編集 愛知教育大学学生支援委員会

委員長 小塚 良孝 (外国語教育講座)

副委員長 浅田 知恵 (養護教育講座)

委員 飯塚 一裕 (特別支援教育講座)

衣川 彰人 (国語教育講座)

安本 太一 (情報教育講座)

頼住 一昭 (保健体育講座)

愛知教育大学 学務部学生支援課

〒448-8542 愛知県刈谷市井ヶ谷町広沢1